

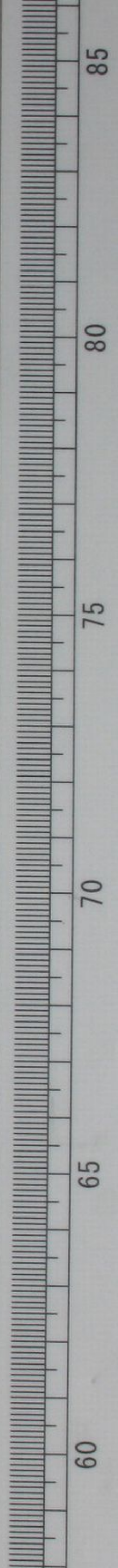


護園雜話

完



服部文庫  
イ 17  
2304



護園雜話

完

417  
2304  
特



護園雜話

一 徠徠每朝髪月代イタサレ夜ハ四ツ時ニ寐ラレ常ニ  
東野春臺ナド咄シニ行レテモ四ツ時ヲ打テハ燈ヲ  
取寢ラレタリト岡井群大夫カ咄ナリト大塚五郎

兵衛語リキ

一 徠翁何々ト云フ字ノ出處ハ漢書ニ有リト覺タリト  
テ漢書ヲ始ヨリ終マテクラレタリニ字ノ一ニテ大部ノ  
書ヲ地獄ガカシセラレシ一氣情ノ人ト南郭云レシ由

瀟水ニ 聞

昭和三年一月十日  
服部元文  
贈

42 9073

一二辨論 昔 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 二 辨 論 昔 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 二 辨 論 昔 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 徠翁何ソ知レヌ一ヲ一字二字ニテモ聞ニ来レハ幾日モ留  
ヲキ出処ヲ付子ハ歸サレサリシトク

一 物子生レシ処ハ二番町之殊ノ外平生攝生ヲ第一ニイタ  
サレハツダケマツダケ類ノ湿地ニ生スル物ヲ食シ玉ハサリシ  
トク酒ハ杯ニテモ猪口ニテモ三バイヲ限リトシ朝ハ六ヨリメ

酷暑中ニテモ草物ヲ着四ツ時ヨリ帷子ヲ着七ツ時ヨ  
リメ草物ヲ着夜五ツ時ヨリメハ袷ヲ着夜行ハ堅ク  
イタササレシトク

一 徠翁ノ親保庵ハモト憲廟ノ御側医師ニテ法眼ニマ  
テナラレシカ貞固直ナル人故憲廟キツウ電シ玉ヒシカ同  
僚ニテソ子ム者アリテ色々諛セシユへ上総へ謫セラレタ  
リソノ時岩田村ノ介限大野庄介カ父庄兵衛カ病氣  
ヲ治シタルニヨリ此方へ滞苗イタサルヘシトテ庄兵衛  
カ方ニタシシ 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

出サル<sup>十六</sup>或徒翁江戸へ出ラル、寸易ニテ占レケルニ否ノ  
九五繫<sup>ル</sup>于包桑ト云卦ヲ得タリ桑ハ桑門僧徒ノ一サ  
レハ是ヨリ増上寺ノ僧徒へ講釋ナドイタサレシトシ  
一 徠翁叔ニ逢テ上総ヨリ飯ラレシ寸芝ノ豆腐屋ニイラ  
レシカ其コロ殊ノ外負シカリシカ右豆腐屋ノ主ヨク世  
話ヲヤキタリ故後郡山侯ニ仕ヘラレシヨリ三人扶持  
ノ米ヲ一生右ノ豆腐屋ヘアタヘラレシ由松崎子允語レキ  
一 春臺ハ堀大和守殿家来ニテ信州飯田ノ人之夫ヨリ京都  
ニ居ラレケル寸東野ヨリ徠翁へ謁セヨト勸メラレシカ

江戸へ来リテ徠翁へ始テ對面セシ寸翁ノ才ヲ窺シタ  
メニ扇面エ釈迦ト老子ト并立キ孔子平伏ノ見圖ヲ  
翁ニ其賛ヲ頼ミケレハ直ニ筆ヲ取テ釈迦<sup>キ</sup>老  
子談<sup>ス</sup>虚ヲ孔子伏笑ト書ケレハ太宰徠翁ノ才不可  
窺<sup>テ</sup>ラ喜ヒ弟子トナレリ

一 竹溪ハ三浦小三郎トテ柳沢保山侯ノ扈從ナリシカ  
學文アルニヨリ徠翁へタヨリ夫ヨリ南郭ナド、  
入寇シ保山侯ノ氣ニ入ニシカ保山侯没後嗣侯ノ氣  
ニ入ラス何<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>夫ヨリ竹溪ハ中野ニ類

有テ暫居ラレシカ後松平伊豆守殿へ仕へ西大夫マテニナ  
リシカ息子不埒ユへ番ノ日モ品川ヨリ飯ヲスト云ヤ  
ウナナレ氏同類ヲハ暇ヲ出サレテモ竹溪ノ子ユロヲ  
減シ置レシニ免角不埒ユへ後ニハ暇出シカイカニ  
ナリシニヤ

一保山侯勢ノ盛ナルコト細川ヨリ毎日ノ進物品十  
兩以上ノ物ナルユへ竹溪大量ノ人ナレ氏アマリ歎シキ  
故墨君微問ケレハアレハ其苦ニ六万石ノケテアル由申ス  
松平左近將監殿執政ノ時カセ板梨子煉ツ依ル  
熊本ヨリ献上好物ニ付

毎日ノヤウニ贈ラレシ熊本ニテカセ板ハカリニ三万石  
ノケテ有シ由是ニ思合スレハカセウノ國風ニテ大諸  
侯ノシルシニ

一柳澤保山侯ノ駒込ノ別荘ニ六義園ト云額但徠ニ  
云付カセラレタリ竹溪ニ見セララル、ニヨク出来シ  
由申サレケレハ竹溪云思筆ナルカ殊ノ外宜シキ由  
申ケル其後徠翁へ咄セシニアレハ其苦ニ六義園ノ  
三字ヲ唐紙四本ニ手習セシ由申サレキ。

一黒田豊前守琴窪  
丹侯甚器用ノ人ニテ神道ヲ学ヒ林家

ノ学文モイタサレ又徂徠ヲモ信仰イタサル此時南郭  
一徂翁ノ云レシハ丹侯ハ小松三位重盛ニ似タリ成  
佛ハセヌ人トテ夫ヨリ小松三位ト云レシ免角成  
佛ト云カ大事ニテ夫レヲ一途ニ思ヒ子ハナラヌト  
ト申サレキ

一南郭ハモト京都ヨリ歌ニテ柳沢侯ニカヘテレシトシ  
一東涯ノ方ニ松岡玄達北村可昌二人アツマリテ徂翁  
ノ天狗説ヲ出シテ讀之二人殊ニ辨駁ニ及タリシニ  
東涯ハ黙シテアリシユヘ二人コレヲ向ケルニ東涯曰

人各有所見ハ論ヲマタス此文章ノ天狗ノ姿ヲ云ノ  
ベタルトイカナル人ヤ及ベキトテ色ヲ正フシテ云ハレ  
シニ二人慙入テ大ニ驚タルト云

一南郭ハ謝安ニ似タル人ナリ喜怒色ニアラハサズ自ラノ  
見ヲ立ル人ナリト云

一春臺黒田大和守殿ヨリ廿人扶持出入扶持ヲ賜ハル  
大和守殿物故後勝手アシクトテ十口減其後又五口減  
セシカハ春臺腹ヲ立殘リノ五口戻上致サレ一生処  
士ニテ終リ息子保定ハ酒井左門殿へ仕へタリ是モ

大夫水野勘解由水元カ世話ナリキ保定不埒ニテ出  
奔シ後知レス

一 徠翁ノ咄シニ八木下順庵云レシハ大概三年ノ内ニ々時  
ホトツ、書物ヲツメテ讀メハ大概ノ学者ニハナラル、由  
云ハレキ

一 山君彝ハ本仁齊門人ニテ洛ニ在シ寸説文筌蹄ヲ  
見テ夫ヨリ千里獨歩シテ徠徠へ謁セシトカヤ

一金華常ニ語リシハ我ハ学文ハ嘗テナシ然シガテ詩  
文ノ上ニテハ塩一升ヲ一斗ニモ計ルべト云キ

一 郡山侯ノ君夫人頗ル学文ヲ好徠翁ヲ尊信サレ屢  
招カレテ論語杯ノ講釈ヲ所望イタサレシニ不得レ已ラ  
講釈イタサレシカ後度々招カレシカハ女中方ニハ箇  
様ナル一別メ益ナキ一之女中ハ唯蛤ノクナラアキ  
タル如ニシテゴサレハヨシト申サレシト云

一 学者皆覺ノヨキラ願フ之然レ覺ノヨキアシキノト  
云ハ初学ノ内之博学ニナルホトソウ、覺ヘテハ居  
ラル、者ニテハナシ此故事ハ此各ニアルヘシ是ハ類各  
ニアルヘシナト、其穿鑿ヲスル筋ノ各ヲ知ル程ニナ



レハ何ニテモ知レヌ<sup>一</sup>ハナシト南郭云レシト伯玄云キ  
一白石ノ詩ハ猿マハシノ三弦ノヤウニト<sup>二</sup>叔子云レ  
シ由惠明云キ

一南郭ノ詩平仄宜シカラス平起有韻ノ句ニ初  
ヲ仄ニ用ヒタル多アリソレヲ春臺ノ云レタル答  
ニ唐ニモ折々有ヨシイハレタリ返答ニ初盛中晚  
ハ云ニ及ハス允華本ノ詩集渡レハ一覽シテ押見  
ニ一首モ其法ニモレタルハ不見モシ<sup>三</sup>下見當ラハ  
一二首ナリ<sup>四</sup>氏見度由答ラレタリ其後服子モ守ラ

レシ由三篇ヨリ見當スト伯玄咄シキ此<sup>一</sup>春臺ノ  
和答讀ニモアリ

一墨子ハ讀ニクキモノ之<sup>二</sup>徠翁ノ考有シヲ玉山ガ  
頭書ニシテ今ノ板ヲオコシタル由瀟水ノ咄<sup>三</sup>

一徠翁平生云レシニ竹溪ハ定メテ人ニ叱ラル<sup>一</sup>有ベ  
シ我方ニテ色々叱ル<sup>二</sup>ヲ云人モアルベケレ<sup>三</sup>氏夕<sup>四</sup>テ申  
聞スナド云レシ由

一徠翁軍学ノ師ハ八人ホトアリ庶流ノ比皆印可マ  
テヲ取レタリ嘗テ南郭ヲモ進メテ杏源右門へ

入門サセ軍学ヲ聞サレタリ南郭ノ咄ニ徠翁ハ  
篤實ノ上ニ精カノ遠タル人ニラレカ聞テソヘト口  
キ謙信流ナリノヨウナ軍学ヲ庶流已ヲ空シクシ  
テ能聞カキナドセラレタリト感心イタシキ

一 徠翁ト軍法ノ贈答ヲ致シタル岡田彦左五門ハ守  
山侯ノ家老ヲツトメシガ直視入道ノ氣ニ背タル寸  
一人扶持ニテ水戸ヘヤラレ其後又家老ニ復職シタ  
リト尾州侯御不行跡ノ寸隱居トサシメタルハ此  
直視入道ト備前侯ナリ

一 廣澤ハモト嵯峨廣澤ノ池ノ村ノ人ニ最ナキニタル  
女アリシカ免角志ヲ立ルモノハ江戸ヘ出子ハ立  
難シトテ千里獨歩ノ思アルヲ彼女聞テ同伴セン  
ト願氏肯ハズ京都ヲ立テ二三宿モ行ト彼女慕  
テ来レリ七里ノ渡ヲワタリテ後山路ヘカルトア  
ル林ノ人氣ナキ処ヘ行テ彼女ヲ一打ニ打捨タリ  
志ヲ立ル者ハ格別ノ器量ト南郭ノイワレシ夫  
故廣澤ハ一生無妻ト云南郭常ニ春共ト廣澤  
ヲ称セラレタリ

一 平子和尅モ奇ヲ好ムル人之其家一妾一僕アリシ  
ニ妾ノ名ヲ月サヨト云僕ノ名ヲ深之助ト云又  
極テ猫ヲ好ミシニ次第ニ多ナリテ十八疋ニイタリ  
シト富田子亮咄シ

一 白石ノ師匠木下順庵自身ハ詩作イツコウ出来  
ザレ氏常ニ詩ハ唐ノ代ノ風カ宜シキ由教レシ故  
ニ白石ヨリ詩ノ風体ヨクナリタリト南郭語ラレ  
シ由瀟水咄シ室新助梁田三郎兵衛皆白石ノ門人  
一 板倉美仲ハ九右エ門ト云シ旗本ノ子ノ兄弟三人

アリ兄ハ佐兵衛トテ武藝十八品ノ免状ヲ得タリリ  
ノ外諸親ニ違一仲節ゴナドハクロウトニモ無キ程ニ  
カタリケリ甚不行跡ノ人ニテ隱居ス色々悪行ア  
ラハレ終ニ遠嶋セラル美仲ハ學業ニ付 徳廟ノ時  
三十人扶持給リケルカ後段々不行跡ニテ御扶  
持召ハナサレケルトニ三男美叔ト云モ才子ナレ氏  
是モ無頼ナリ

一 石叔潭詩會ノ寸イツモ席上ニテ奇談ヤマズ  
皆席上ノ人申スニハ千ト々談ヲヤメテ詩ヲ案ス

ベシト云へハ是ホト面白キニ詩カ作ル々モノカト云キ  
一 侏翁ハ極メテオヲ愛スル人ニテ熟ニヲ可タル人  
ノ少年ノ客气ニテ娼家ニ遊テ出奔シタルヲモ再  
呼モドメ諫戒セラレシテ度々アリソレ故侏翁ヲ  
非レル人アレト實ハ行儀ヲリツメタル人之行跡ノ  
方正ナルヲ南郭蘭亭子名ナトロラソコヘテ同  
ニ語ラレシ世ノ人ハ是ヲ知テス放蕩シタル如キニ  
ソシレル人有レト其後子迪ヨリモ物子ノ行跡ノ  
方正ナル話ヲ度々聞ケリオヲ愛スルアマリニ

板倉美伸ナドヲモヨク應對アリシ春臺嘗テ板  
倉ノ坐上ニ坐シ甚倨ナリケレハ板倉辞メカヘレリ  
其アトニテアレハ何人ニテ侯ヤ羽折ヲキテ禮服  
ヲモセス人ヲヨクアシラハセタマフテ心得ラズト侏翁  
ニ申サレシヨシ是ニヨリテ板倉一生春臺ヲ非リシ  
由又其後竹溪浪人ニナリテ甚ニクルシキテイニテ  
護園へ出入セシカハ春臺是ヲ甚厭イテ金谷ヲ  
以テ侏翁ニ申ケルハ竹溪ハヨセタマハザルヤウニイ  
タサルベシアノヤウナモノカ出入イタシナバ後生ノ

輩ノテホンニモ宜カラスト申セシカバ翁ノ云レシハ  
アレハ別ニミドコロガアルニヨツテ先サシラダガヨシ  
トイワレシ由

一 春臺ハ能ノ太鼓ヲヨホドヨクイタサレシヨシ

一 庄内侯ノ臣ニ稻富又百ト云人アリコノ名ハ徠

翁ニモライシ由嘗テ一夜ニ梅ノ詩ヲ百首作り

翁ニ見セシカハ又百首作りテミヨト云ハレシカハ

又梅ノ詩ヲ百首作りテ見セケレハ徠翁ソノオヲ

甚感心イタサレ是ヨリ俗稱ヲ又百ト改ムベシト

云ハレシ由

一 筑波ハ松平伯耆守殿藩ニアル寸始メテ國ヨリ来

ル使者ヲ五十間当リ口上書ナト受取タルニ夫ヲ

口上名前不殘記臆シテ右ノ書付ヲ置テ出タリ

同僚氣遣タルニ歸テ殘ラス口上ヲ云聞セタルニ少

モ不違ト之左傳ナドハソラニテ覺居タリ講叙ハ

至テ上手ニテ淨瑠璃本ナド讀ヤウニ席上ニテ

短文ナト妙ニ答タリ一體雄壯ニテ劍術ハヨホドス

タレタリ五十二三ノ由

一金華詩會ノ時詩出来ヌトテ雪隠ノ内ニテ考暫  
シテ出<sup>キ</sup>ヨキ句カ出来タリ名月ト云ニ字ヲ考  
タリト云キ

一南郭松前八兵衛殿ヨリ熊ノ皮ト鎗トヲ贈ラレタリ  
各ヲ讀テ厭マレタレハ其皮ヲ冒リ鎗ヲツトツテ兎  
輩ヲ追カケナトシテ慰マレシ由夙韵拾別ノ人ニ  
ト文仲カ咄シ

一蘭亭ガ父ハ日本橋小田原町ノ御十ヤ也豪富  
ニテ芭蕉ノ門人ニシテ俳諧ヲヨクス百里ト号セリ

病革ナル寸原芸庵ト云人ヲ呼テ辞世ノ句ヲ作レリ  
紙筆ヲトテトリヨセ「死」ニテライテス<sup>シ</sup>キ月ヲミ  
ルモヨシト書テ暫シテ先ニ書カ<sup>リ</sup>タル寸芸庵ノ  
サウ<sup>ク</sup>シカリツルユヘ書キアマリタルトテ又紙ヲ  
ト<sup>ク</sup>テ下ノ字ヲミルゾカシト昏キ改テ筆ヲ<sup>投</sup>テ  
終リケルトナン甚豪氣ノ人ト云蘭亭モ父ノ氣  
ヲ継豪氣ノ人ト

一蘭亭徂徠ノ<sup>ト</sup>ラ論ゼシカ南郭春臺ナドヲウミ  
出シタルホトノ人ニ<sup>ハ</sup>其量ノ大ナル<sup>ト</sup>其深鑿タク

マシキコト實ニ不可及マコトニ天授ノ人ナリトゾニス  
ル又月ノ十六日會アリテ門人歸途ニテ各今日  
疑ヲ問ヒシニ夢ノサメタル如ク覺ユトカタリ合シ  
コト度マニテアリシト云ヘリ

一牛門ノ會ノ寸石川黙齋口ヲキ、テヤカマシケレハ  
平野金華云シニハ黙齋不黙ト云ケレハ金華無  
金ト答タリト子祥吐

一徠徠ト三河ヨリ出入ノ萬歲來タルニ何リ書テ  
給レテト云ニヨリ鳥歌萬歲樂ト唐ノ樂曲ノ名云五字ヲ

書テヤラレタリ其後持參シテ印ヲ押テモライシ  
トリ

一徠翁鎗術ノ師ハ築地ニ住ス深井半左エ門ト云法  
藏院流ニ徠翁武藝ノ中鎗術ハ一番長セリト嘗  
テ自身一ツノ手ヲ編出メ如何アルベキトテツカイ  
テ見セケレハ師大驚テ申セシハ別メ宜シキコトナレト  
ソノヨウナル手ハ吾等家ニ殊ノ外秘シテ傳ヘスト  
テ舌ヲマキシ由後其印可ノ内ニ藝中王ト云術ヲ  
徠翁撰バレタリ

一 廣沢ハ甚勇猛ノ人ニ柳沢侯ニ仕ヘシ寸大内新助  
ト云大ガタリノ浪人ヲ柳沢家ニテトラヘテ廣沢ニ  
吟味ノコトヲ託ス後川越ノ領地ヘ囚人ヲツカハセシガ  
是新助ト云ハ大カノクセモノニテ川越ノ領地ニ至リ  
手錠ヲ子ゲキリアミ乗物ヲ破飛出セシ切大カノ  
武人ユヘ警固ノ足輕數十人ヲ踏倒シノガレントセ  
シ寸廣沢人数ヲ退カシメ組ウキニメ暫クセリ合ノ  
ケサマ組伏擒ニシ大足カセラ打テ手錠ヲカケ直シ  
足輕六人トリ繩ヲ六スチニテ嚴シキ獄中ニ入タリ

シガ其夜舌ヲクイキリ自害シタリ是前川越ノ途  
中ニテモ度々遁レ出ントセシヲ廣沢ヨク守固セラ  
レシ由

一 廣沢中野辺ニ住タル処士ニ頼政ノ禁裏ヨリ下サレ  
タル太カノ由ニテ持タルヲ道灌末トテ持傳ヘシ  
ニ松平右京大夫殿キ、及ハレ廣沢彼人ニ心安ケレハトテ  
頼ミテ所望セラレ取寄ラレタルニ取次ノ人所為ナルヤ  
後ニハ一向シレヌコトナリテ彼什物持主ヘ戻ラ子ハ廣  
沢モ不審ヲ受シカ殊ノ外憤リテ右京大夫殿ヲ登



城ノ節刺殺シユ夫ヲシタリ其ノ自然ト保山殿へ  
キコヘ止テ得ス暇ヲ出サレタルヨシカノ處士貧困  
ユヘ拂モノニ出シタルヲ廣沢ヨリ見セケルニ太刀モ  
返サス代物モヤラザリケル故ト

一 但徳ノ徳廟へ拜謁セラレシ寸初ニ雷ノヲヲ御間  
リシニ自分ノ疝氣ノラコルヤウニテ何ト云ワケモ知レ  
カタキヨシ申上ラレケレハ大ニ御笑遊サレシト

一 徳廟ノ侍加納遠江守殿有馬兵庫頭殿ヲ以テ六論  
行義林家へ仰付ラレ候へ氏直カラズ因テ徠公羽へ点

付差出シ候ヤウニト仰ニヨリ夫ヨリ六論行義官  
刺仰付ラレ其外諸事御隱密御用兵庫頭ヲ  
以テ御尋ノ内火事之儀御苦勞ノ段仰出サレケ  
レハ町火消ノ儀申上ラレニ三ヶ月夕午仰出サル  
大ニ越前守殿いろは組ヲ立ツ又夫マテハ小身ノ  
者大身ノ勤ヲ仰付ラルレハ其高御加恩ニテアリシ  
因テトカク親ノ勤ヲ子ニ仰付ラレケル依テ人才  
少キヨシ御尋有ケレハ其時役料足シ高ト云テ  
申上ラレニ二三ヶ月立仰出サル是ヨリ小身ノ人ノ

器量モ頭ハレ諸家ニテモ人オヲ取用ルテ出来タ  
リ是ニケ條ハ不易ノ功之コノ前 憲廟ノ御代  
柳澤彦ヲ以テ御隱密御用仰付ラレシガ赤穂  
ノ士言良ヲ伐シ寸死罪ニ刑定リタリシガ柳澤彦  
へ徳徠申上ラレシニハ君ノ仇ヲ報ルテ故切服仰付  
ラルベクゾンスル旨申上ラレシ故夫ヨリ急ニ評定  
カハリテ士ノ格ニテ切服ニ定リタリ  
十 憲廟ノ御代ヨリ徠徠召出サルベキ御内意アリ  
シガ辞セラレタリ後 徳廟御代召出サルヘキ御内

意アリシ寸存ヨリコレアリトテ固辞ス其後御目見  
仰付ラレ其翌年正月 徳廟濱御殿ニテ御直ニ何  
カ御尋問是アル旨仰出サレシカリノ正月病中ニテ  
同十九日下世ユヘ濱御殿ヘモヤラレ又之此年ハ結構  
召出サレ叙爵ヲモイタサル筈ノ処没故一惜ト  
ト右紀州出ノ 徳廟御素讀十ト申上シ大嶋雲平  
後改ノ咄ト恵心明本多幸藏語リキ  
故心ノ咄ト恵心明本多幸藏語リキ  
蘭亭失明ノ後徠翁ヘユキテ今ハカクナリヌレハイカ  
ントモスベカラハ針ヲ立習テ生産トモスベキヤト申

セシニ徠翁シバク黙シテアリシガイヤ々夫ハシカ  
ラス易ヲ学ヒテ筮者ニナリナシヤ又詩ヲ作り詩  
ノ教ヲナスベキオナリ又警シテ必詩ノ教ヲナスベシ  
聖人詩書禮樂ノ教ノ其一ツヲ得ベキナレバ是ニマ  
サル下ヤアルト決断アリシ故詩ヲ学テ今ハ身産  
モ貪カラス又後世ニモ名モ朽スマジキト存スルニ皆  
徠翁ノ目ノ明ヲ教ラレタユヘナリト蘭亭語リキ

十蘭亭一ハニテ音タルワケハモト有屋ノ富家ノ子  
タルガ常ニ伽ニ十六七ノ小座頭来タル加利根モノ

ユヘ家内ノ氣ニ入往々ハ世話イタシワカハスベシト  
兩親トモ思居タルガ如何ノコヤラ蘭亭ト申  
惡シク殊ノ外蘭亭惡マレテドウゾメ出入セヌ  
ヤウニトユ夫ヲメグラシ或時富家ノコ故母カ針  
箱ニ金子三兩有タルヲ蘭亭ノイタツ小座頭  
ノ道具ノ内へ入ヲキタリナニカナ尋ラレタルニ知ス  
シカラハ召仕ノ道具ヲ改メント云ニ成ケレハ小座頭ハ  
荷ノ心モナケレハ速ニ改サスルニ其道具ノ内ヨリ出  
タリ依テ其小座頭ヲ呼テ其方ニ於テハカクノコト

キ悪行ハ有<sup>ル</sup>シキモノト思ヒ往々ハ世話ヲモシテ身  
ノカタ付ヲツケヤルベシト思シニ不届ナル悪心ナリト  
テ止<sup>ム</sup>入ヲ止<sup>ム</sup>ラレタルカ爵憤シ井戸へ入テ死タリ其  
死セシ日ヨリ蘭亭目ヲヤミテ盲タリ因テ是ハ  
彼ノ坐頭ノ一念ニトテ治療ノヲラス<sup>ル</sup>ハ有<sup>リ</sup>  
テモ不<sup>レ</sup>嘗<sup>テ</sup>肯<sup>テ</sup>キト<sup>シ</sup>此コト深ク秘シタルカ老年ニ  
成テ咄タリト春山カ咄<sup>ス</sup>

十南郭翁ノ烟州ノ歌ナリトテ「糸」ニ似テ管ヨリ出ス  
煙コリ富士ヤ淺間ノ峯ノ白雲」ト子煩云シヨシ

余按スルニ郭翁ハ歌道達者ノ人ナルヲ前ニモシルシ  
テアリ是ハ郭翁ノ歌ニテハアラジコソト云詞ノウ  
ケ字ナシ若南郭ノ歌ナラバ愚按ヲ以テ其峯ノ白雲ヲ  
雲ト見ルラメトテモ有<sup>リ</sup>欤

一王維カ料頭ニメ箕踞長松下白眼看他<sup>上</sup>人<sup>ト</sup>云  
詩ヲ南郭ノ他ノ世上ノ人ヲ看ルト点ヲ付ラレタル  
ヲ春臺ノ看他スト点付ベキ由云レシニ看他ハ俗  
語ニテニラミ見ルキミナレハ随分ソウ付ルカヨケレ  
和語ニテ他ノ世上ノ人ヲ看ルト讀メハ句モ舒ヤカ

ニ詩ヲ讀ノ法ニト云レシ由家語ノ註ニ十五異糧ト  
云フアルラ其條ニテ増注刺セラレタルニ冬藏其外  
ナトモ是ハ曲礼ニ五十異糧ノ誤ノ由十五ハ顛倒ニト  
云説アリシカ考甫家語ノ聞書ニ十五トアルハ五  
十ノ誤ナラシナレト十五ヨリ為又トテ幼少ノ時食  
物遠フト云フアルモ不知古書残缺スレハ見當ラヌ  
トモアルヘケレハカヤウノトハ存シテ後ノ疑ヲ残シ置  
キ問クト春臺ノ口説ニアリサスレハ護園ノ諸  
子ノ致シ置レシト氏鼻ノ先ノ智惠ニテソシルハ本ル

非ニト文卿ヨリキク

一 仁存ハ死ノ外京都ヲヨク隨ヘラレタリトミテ賤  
キ者マテモ源佐殿トテドノ付ニ云タル由

一 熊沢了介カ近江ニ居ラレシ寸或人馬士ニ道ヲ尋  
シニ是ヨリ十里ニト教ユ其人ソレハアヤク遠シク  
ナラント云シニ馬士コハ了介様居ラルレハ啞ナト  
ハツカヌ所ニト云シ由

一 頼寛侯 松平大学頭殿 人ノ来リテ咄ノ寸但徠ト申セ  
ハ色ヲ正シテソノ方夕十ツ但徠ト呼ズテニイタ

シテスムベキトテ怒ラレ給シ由

一 徂徠ノ先配ハ三宅孫兵衛ト云旗本ノ女ニ廣沢  
媒妁メメトレリ故ニ廣沢ハ通家ナレ氏徂翁ヲ度  
々凌キシト有シユヘ後ニハアマリツキアワザリシト  
之春秋世一徂翁始テ柳沢侯ヘ謁セシ寸廣澤披露ス此  
寸書院ニ作り花ノ松ノ盆アリシガ是ハ盆ニテ一首  
詩ヲ献セラレヨト云作花ナツノ詩ハ古ヨリ作例  
モナキ日徂翁申サレ辞セラレケレハ例ナキ詩ヲ作  
コリオ之例アラハ誰ニテモ作ナリ申サレタルカ其

座ニテ速カニ作ラレシトソ後カヨウノソ度々ナル  
故交ラレヌト之

一 春臺ハムタ咄シスルナド、云フハナキ人ニ諸侯ヘ  
會ニ行レテモ仕度ノ上ニ辞歸ラレタリ酒ヲ飲ニ  
モ一二杯ニハ過ス夜ハ四ツ時ヲ打ト酒ヲ飲直ニ  
卧セラレタリ

一 春臺或時諏訪町ニテ去ル大名ノトモマハリニ溝  
ヘツキラトサレタルニヨリ今ニテモアル蕎麦屋ニテ  
足ヲ洗アトヨリ逐カケ其歩行ヲトラヘ段々無禮

ヲトガメ余程六ツカシク云カケシカ諸候方ニテ  
供頭出姓名ナト聞浪人ナレバトテキガヘノ衣服  
ヲアタヘ春臺ノコトヲ取アケサリシカハ春臺  
シブニニフシヨウシタリ

一 徠翁七歳ノ寸林春齊へ参ラレ掛物カ聯欵ヲ讀  
レタリ也皆齊甚感心セラレシ由初ハ林家へ入門  
セラレシユヘ林家ノ古キ入門帳ニハ徠ノ名モアリ  
一 平子知ハ護園ノ社中ニテ度々也日臺ヲ悔慢セ  
シトアリ會讀ノ寸議論スル折ニ太宰ノ論ヲ抑

ヘツケ確論ガアツテモ無理ニ虚談ヲ交ヘテ云伏セ  
コマラシタリ夫故平生中悪シク折節ハ七安作ニ書  
籍ノ名ヲ云七安作ノ語ナドヲ云立テ云伏春臺アツ  
クナリテ其書ヲセンサクスニ三日モ過足下ノ云シ語  
ハ見ヘズナンノ処ニアルトテ向ヘアレハ我腹中ノ語ナ  
リ足下ノガ實ハ確論ジヤナド云テナブリシ由

一 徠翁ハ前ニモ云如オヲ愛シテ無行ノ人ヲ棄サ  
ル一伊藤二郎ナゾハ無行ノ人ニテ切々亡命ノ印肉  
ヲウリアリキシガ道ニテ徠ニ出アイ早々町ノ

ノウラヤヘニゲヒシヲ若黨ヲ追カケサセ強テツ  
レカヘリ手前ニラカレシトカヤ

一南郭モ國初ニ文人ナキニ深草ノ元政ノ扶桑隱  
逸傳ハ中々ヨク覺ルト語ラレキ師德アリテ其  
時ハ生タル如來ノ如ク人信ゼルトナシ此下熊澤  
ノ書ニモミヘタリ春臺ノ門人宮田子亮深州ニ往  
テ其アトラ見シニ元政ノ手書ノ和歌ヲカケ物ニシ  
タルアリ「ク千子白オリク人ノ尚クレハ心ニカル  
峯ノカケ橋

一不佞ト云フ名ヲ昏ズニ只不佞ト書タルハ司馬穰  
苴傳ニアリ但來集ニ是ヲ考ニ引タルヲ叔慈  
カ國語ノ名ノ下ノ不佞ヲ引タルトテ瀟水憤ラレ  
シトアリ

一瀟水ノ祖父ハ宇佐美杵ト云シ其節鴨根村ノ  
ト云所ノ分限石野孫右エ門カ家へ盜賊入夕  
リシニ其娘長刀ニテ追散シケル夫レヲ聞テ杵女  
房ニ迎ニタリト其女ノ髪ノ内ヒタイニ疵アリ其  
節ノ疵ナリトテ此女中髪殊ノ外長ク立テ居



ルニカ、トマテ届キシトナリ

一筑波ハ市川團十郎ト心安シ或時護園社中ノ  
書ヲ團十郎モライタシトテタメノミケレハ早速シ  
ヤウキノ皆己レカ贋書ノヤリタリ又瀬川  
菊次郎ニモタノマレシ寸カヨウニメヤリタリニ及  
共ニ大ニ喜テアツク謝禮ナゾシタリ文卿カ咄ニ  
ハ慶子<sup>中書</sup>カ京へ上ル寸春臺南郭ノ筆ニ詳リ送序  
ヲ贈ク因テ慶子進物ヲ以テ春臺へ行タレハ  
存セヌトニクキ筑波ガシワザト云レ由此送

序殊ニ見下ニ出来タリトソ

一筑波ハ勇氣ノ人ニテ武術モスグレシ人ニ武藏  
野ヲ通ル寸盜賊四人出テ剥取ラントセシテ一人ム  
子打ニメ四人ノ賊ヲトリモシイタリ後其処ヲ通り  
タレハ村ノ者共出テ時宜シタリト伯玄ヨリキタリ  
一同人駒込ニテ箸<sup>古</sup>耕シタルニ書物ハナシ唐詩選滄  
溟尺牘ヲハ空ニテ説ク見臺ノ上ニハ淨留利本  
艸草紙ヲノセテ説キタリ又諸侯方へ出講スル  
大ガイ書ハイツモ滄溟尺牘ヲ見臺ニノセ空ニテ

講セリト惠明ヨリキク

一 瀟水考文ヲ助ケラレシ功ニヨツテ古金ヲ縣官ヨリ賜ハリタリ是ニテ嘉靖板ノ十三經ヲ調ヘタリ古金七兩ニ

一 憲廟實録ハ保山侯報恩ノタメ但徠ニ命メ編レシニ其内 憲廟ノ大好并殺生ヲ忌レ給ヒシトハ保山殿ノス々メニテ致サレシヤウニ書レテレハ保山侯徠翁へ申サレケルハカヤウノ儀我ススノニ非ス是ニテハ如何ト申サレケレハ徠翁云君

ノ過事ヲハ臣下ノ受ベキト對ラレケレハ侯  
輒ニ思惟ノ体ニテ實ニサルトモ有ヘシト云給  
シ由右實録ハ郡山侯ニ有ヤ否ヤヲ知ス神明  
門前山城屋茂左エ門ト云本屋ニ二十卷ハ写シ  
タレヒアト十卷アリテイマダ写シ終サリシ由瀟水  
へ咄セシカイカ、メ写取タリヤ不審一年一卷都  
合此卷ニ

一 徠翁常ノ語ニ人ニ得手不得手アリ予ハ楷書  
ニ短ナリトテ草書バカリ書レタリ草書韻會ヲ凡

上ノ研ノ下ニヲキテ常ニ学レタル由

一 長門ノ周南ノ咄トテ北條敏ヨリ聞シガ徠翁ノ  
母翁ヲ産スル夜ノ夢ニ正月ノ松カザリヲ夢ミタ  
リヨツテ父方庵生子ヲ雙松ト名ツケラレシヨシ  
徠翁ニキケリ又徠翁ハ生得雷ヲ好マレタリツレ  
ユヘ若キ寸ハ時分自ラ蘓雷ト号セラレタリ此ハ  
未至テ若キトキノフ之其後徠翁ノ松ノフ又  
ユラノ松徠翁ノ松ナラン云ハレテ徠翁ト改メラレ  
タリト此亦徠翁ノハナシニ聞タリト云ヘリ又曰

其後周南唐山ヨリ墨生ヲ入シ画ノ内ニ詩画トモ  
カケルアリ其画人ヲ雙松トアリシヲミレハ雙松ハ  
和俗ノ文字トモミヘスト云リ此コト疑シケレハ後ニ  
宇子迪ニカタリテ正シケレハ周南ハ年来徠翁  
ニ隨身シタレハカクノ如キフモキカレタラント云リ  
自分ハシラスト云リ

一 白石殿中ニテ木ヘンニ目ト云字ハ何トヨムト云  
タレハ答テ見習又字ニ定ラモクト讀ムヘント云  
レシ由是ハ太平記無礼講カノ処ニ見ヘタリ

一 富春山人ノモトラ尋ルニ大坂七組ノ番頭堀圖  
書之助ノ孫ノ大坂没落後乳母ナルモノ其子ヲ  
携ヘ軍用金ヲ貸殖シテ医者ニナシタリ其子田  
中壽軒トテ松平筑後守殿藩ニ仕ヘ今田中左門  
トテ其末アリ富春ハ田中清太夫トテ丈右エ門カ  
弟ノ保山候未タ美濃守ニテ河越ニ在城之時  
ヨリ仕ヘ甲斐ノ國主ニナラレ後郡山ヘ所替ノコ  
シサハアリテ立退タリ夫ヨリ一人東奥一トリ  
タル寸俵翁ノセハニテ跡ノ欠所セラレシラ不殘

武具馬具マテ金ニシテ妻子唾ノト凡ニ東奥ヘ贈  
ラレタリ東奥ニ十一年ホト居ラレ夫ヨリ  
池田ヘ上リテ死セシ人ニソノ時嚴子陵ラシタヒ  
テ富春叟ト云タリ父ハ達者ニテ席上ニテ書レ  
東海漫遊行ナドハソノマニ出來タリ書物ニ冊  
モナク向ヨリ望ニ任セテ講釈セシ人ニ皆記憶シ  
タリト山子祥カ咄ニ田省吾トハコノ人ニ子祥カ  
父ヲ平助ト云タリ清太夫京都ヘ行シ時委細  
ナル道中記ヲカシタルニ三日ノニ平助参リタルニ返

シタリ昨夜寐ラレヌマ、ニソレラ讀タルニ記臆シタ  
リトテ平助ニヨミテモライウラ、江戸ヨリ京都マテ  
ノ本陳名所賃錢ナトヨミタルニ一字モ違ハズ又  
逆ニヨムニ少モタガハス謠記ノ人ナルヨシ

一南郭初稿序ニ但来吾家ノ納言トイヘルヲ秋生  
少目ノ一ナリト云ハ誤ニ少目ハ四位ノ納言ト云ハ  
懐風藻ニ載タル石上乙麻呂ヲ指テイウニ乙麻  
呂太姓ヲ物部ニテ官中納言ニ至レリ詩ノ達人  
ナリ故ニ小野篁藤原常嗣ナド、一トコロニ称セリ

一但来病革ナリシ寸病状 上聞ニ達シ 徳廟

ヨリウニカウル賜ハリタリ倍臣ニテ公儀ヨリ御  
藥ヲ賜ルト云ハ先格ナキ一ナリ其死ヲ甚惜マ  
レシト云是ハ学風ノ著述アキメラズ且 徳廟  
厚ク但来ヲ用ヒ給ヒ家ヲモ興スベキユヘカク惜  
レシトナリ熊耳嘗テ語リキ

一徠翁疾病ナリシ寸嘆息シテ予下世ノ後遺  
文世ニ行レナンニ予ヲ知人ハ日本ニテハ東涯一  
人ナルベシト云レシト松崎子<sup>名</sup>語リキ

一 藤東壁柳沢侯ヲ辞シテ江戸白山ニ小屋ヲ鄣住  
スル寸愛妓ヲツレ来テ同居ス徠翁其居ノ辺ヲ  
過ラルノツイテ立寄レケレハ安藤狼狽ノ物置ノ  
内へ其妓ヲ忍ハセタリ俄ノコト故上着ノ服ヲ屏  
風ニカケテアリシヲ氣モツカスウロタヘテ迎ケリ  
徠翁暫ク物カタリシテ婦人ノ服アルヲ怪マレケル  
顔色ユヘ欺キテ小生妹アリ官へセルカ宿サカリシ  
テ此小屋ヲ訪来リ只今近所へ物詣シケルヨシ陳  
シケレハソレハカル所へ来ラレテハサゾ不自由ナルシ

我ホ方へナリトモ逗留ニコサルヘシトイワレシカ歸宅  
ノ後其妹へトテ酒肴饌餌ナト饋リコサレケレバ東  
野イタミ入テ赧然タリシトゾ此妓殊ノ外貞固ノ女  
ニテ東野亡後ニ外ヨリメトラント云テ勸ル人アレ氏  
一向取合ス尼ニナレリト 千葉子玄  
文御ヨリキ  
一 服仲英モトハ富春叟ノ門人ニテ其後衣笠玄番ト  
云人ニ暫ク付テ修行シタリ仲英ノ集ヲ踏海集ト  
号セシテ瀟水ナドノ意ニハ魯仲連傳ノ字ニテ  
ヨカラサル字面ニトタヒク云レタレ氏聞カサル由後

文伸ニ聞タレハ仲英カ親ハモト神主カ公家ノ雜  
掌ニテアリシガ訴訟ノ一ニテ御構ニアヒタリ仲英  
出府シテ御訖申シ若聞ウケナクハ蹈<sup>ラ</sup>海<sup>ラ</sup>而死トテ  
江戸へ出テトウク御訖叶テ父赦ニ逢ハレタリ是  
ニ因テ此号アリトシ

一 侏翁柳澤侯ニ仕へ保山殿没後加増アリテ五百石ニ  
ナリタリ奉公モナク町宅セラレ先茅場町ニ住シ  
夫ヨリ牛込ノ外ニ移リ又赤城ノ近所神樂坂ニ  
居ラレ又市ヶ谷大住町ノ中ノ町ニ住居ス此時青山ヨ  
リ火五段ヨリ巢鴨迄焼失ノ時回録ニ逢レタ  
リ

一 侏翁胴ノ長キ人ニテ小袖ノ丈ハ四尺ヲ着ラレ  
タレ氏袴ハ短キヨシ

一 春臺ハ西臺侯ヨリノ書間ニ字カ号ヲ書レシ  
ヨリ無礼ナリトテ往サリケリ

一 春臺へ金華ヨリ書牘ウハ唇キニ金華山人ト  
書テヤリタリ春臺兄弟ノ中ニモ礼アルベキヨ  
シ云レケレハ成程トカテシ又文通ニ春臺老賢

金華トカキテ眼へカタカナニテコレデハト書テ  
ヤリタル由

一南郭詩會ノ寸清風不待秋ト云題ヲ仲英出セ  
シ寸南郭モ仲英文仲ナト出来シニ士寧ハカリ  
出来ス其後文仲右ノ詩ヲ士寧へ相談ノ寸士寧  
云レシハ句題ハ作ラヌト之畢竟詩ハ長イコト短  
ク云取カ手柄ナルヲ五字ニテ意味ノ有ラ十字ニ  
云ノハセハ自冗句有テ詩情ニ背タルト之唐人ニ  
モ句題ハ少ク于鱗ナトモタマフ之句題ヲ作ルハ

詩ノ衰ロシト示サレシ由

一或國君當世ノ名人ヲ論ス今日本ニテ學術

ハ荻生惣右衛門伊藤源藏曆算ハ中根丈左門号

久留嶋喜内内藤備後守殿  
臣ナリト云筆道ハ細井次郎太夫官

位装束ハ壺井安左名ハ義和神道ハ賀茂梨木

氏誹諧ハ松木次郎左門クタリテ戲臺狂言ハ

市川團十郎

一熊本藩ノ藪久左門号震  
庵ハ肥後ニテハヨホドヨキ

學文ニ仁存モ果ラレ最早徂來サヘ言付レハ世



ニコワキモノナシト思ヒテ書牘ナト贈ル江戸へ出  
テ紹介ヲ以テ徠翁へ来ラレシニ徠未坐敷ノ掃  
除サセテ居ラレシカ是へ御通有ヘシトテ通ラレ  
タリ震庵ソレニハ及ハスト申サレケレハ其許ノ  
為ニ掃除イタスニテナシトテ其後掃除ラ止ノ初見  
ノ挨拶ニ及ヒサテ其許ニハ何役ヲ御勤ナサルト  
聞レシ寸物頭役勤ノ候ト答徠来云肥後ハ水  
國ナレハ御役儀ニテハ定テ水軍ノ上モ御巧者ニ  
有ヘキナレハ追々御咄ヲモ羨ルヘキト云レタレハ

マメ学ヒ申サスト答ヘシニ徠来ソレハ御頼母シタ無  
之儀然レハ御役難勤ト申モノニ御役儀モ勤ラヌ  
内学文ナドハ然ルベカラスト初ヨリキメツケラレ  
震庵モセリ付心ニテ行レシカ此一言ニテ連モ太  
カ打ハ不可叶ト甚心伏セリ其後ハ何ニテモ徠未  
ノ音ヲ得テ事ヲサバキシヨリ殊ノ外肥後ノ風  
俗ヨクナリタリト石息子数茂二郎咄ニト鍋寫  
ノ松枝善右エ門ヨリキク

一 護園ニ仇峯カ桃李園ノ画ト文徵明カ讚ノ掛物ノ

来リシヲ徠翁見ラル、ニ仇氏カ画ハ正真ニシテ又  
徵明ハ偽書ナリ價ノ高下ハイカト尋ラル、ニ又  
徵明ユヘ高直ニト云シカラハ徵明ヲハ返シ仇氏ヲ画  
斗取ルベシトテ甚廉ニ調ラレタリ後西臺侯讚  
セラレテ護園ニ今有優游館ニモ小林海鷗此圖  
ヲ取タリ

一護園ニ犬吠ノ達磨ト云画アリ北殿司ノ筆ニ  
或時居間ニカケテ置レシニ庭サキヘ犬折節参  
リ此画ヲ望ミテ犬ニ吠シトカヤ是ヨリカク申シ

ト画ハ達磨トハ申セ凡實ハ臨濟ノ像ヲ画キシトリ  
一前段ニ云仲英ハ親ノ寃ヲ雪ヒテ後修行シテ居  
タルコト終ニ夜着ヲキズ嚴寒ノ時モ素足蒲團  
一ツニテ卧クリ此時ハ木綿夜具ナト買ハレサル  
ニテモナカリシ故ニ不審ニタレハ親右ノ通り寃  
逢タル故一生フトニツニテ極寒ヲモ付タリソレヲ  
思フ故ニ蒲團斗ヲ着ルトテ赤羽へ行テモ一生  
夜着ヲハ着サリシ由感ズベキトシ  
一瀧長愷ハ屈彊ノ人之彫刺某ノ印譜ヲ得タル

ニ華人ノ序甚讀カタク長愷ヨリ始メ南郭仲  
英ナトヘモイセシカ讀メヌ由ニテ置タリシニ度々仲  
英韻ヲモタニテ詩ノ長篇ニスレハヨクヨメタリ夫  
ヲ彌ハニミセタレハ負ラシミニテ詩ニスレハ隨分ヨマ  
ルト云シヨシ

一 林周助ハ林義卿トテ周南門人ニシカ徠翁ト周  
南ノ父通ラ已ト徂徠トノ如クシテ印行シタリ夫  
ヲ南郭ト春臺ト松平撫津守殿イマタ民ア少輔  
トテ參政御勤アリシ寸願書ヲ以テ堯板シタリ

ニヨシ此願書惠明持タリト世竜云キ周助娘ハ松  
平周防守殿へ妾ニ抱ラレ甚電アリ依之周助惣  
領ヲ用人宮城治郎左門カ養子ニナシク疾執政  
ノトキ專ラ執要ノ人ニ宗徳時々アイキ

一 鳥山侯ハ甚詩ヲ速ニ作ラレシ文仲彼是八人カ  
召レタル寸席上ノ題ノ外八人へ贈詩七律八首  
其上ニ八人ノ和韻ヲイタサレタル由甚アラキ詩  
之壺山侯本多ハヨク考タル人ノヨシ皆蘭亭  
門下之鳥山侯ハ宦樓ノ門人ユヘ師弟ノアシラヒ

ニテハナク食客ノアシラヒノヨシ文仲ツキ

一 鞞園文治郎名ハ元昌号蘇山長崎ノ人之総  
髮ニテ容兒甚異之華音ヲヨクス或長崎ノ  
譯者ノ子ニテ華人ノヲトシ種ニト云十九ニ  
江戸へ来リ柳澤候へ徠翁推擧ニテ仕一  
タリ其時歳ハ廿六ニト申ケレ氏実ハ十九ニ初  
長崎ヨリ町家ノ手紙ヲモラヒ江戸ノ豪家ノ  
町人へムケテ参リケレ氏コノ町家ニテ手紙  
ハ相違ナケ子氏容兒ヲ見テ怪シク思ヒ一宿ヲ

モイタサセ申<sub>テ</sub>ナラズ又明日ナリ氏ヲ出候一ト  
云シニヨリテヨシトコロナク馬喰町ニ宿ヲカリ  
テ居タリ幾日モナニモセズニイタリシカ亭主  
ノ云ニハ何ソ覺へテ居ラレ候<sub>テ</sub>アリヤト申ケ  
レト何モ手ニ覺タル<sub>テ</sub>ハナケレ氏只ノ手ヲ少シ  
書ト申セシユへ然ラハ各イテミセタマヘトテカ  
、セタリ亭主コトノ外悦ヒ夫ヨリ手ヲカセテ業  
トセサセシト<sub>ニ</sub>其内徠翁門下ヨ遊ヒテ居ルヲ徠  
翁へハナシケレハ手前屋敷ナリ氏出ラレヨトニ保山

候へ進ラレシト之徂来墓石ノ正面ハ此蘇山ノ書  
十リト

一 柳沢候ノ藩ニ牧田文藏ト云人アリ天文算学  
ヲ能ス瀧水三嶋町ニ居ラレシ寸南郭盛ナリ  
シガアノ方へ行ク瀧水へ入門シタリシトテ秘  
藏セラレタリ

一 竹溪瀧水ノ句讀アル書ニ句讀セラレタルヲ  
春臺愚ナリト笑レタリ竹溪キ、テ其句讀ノ  
上ニ句讀ヲスルバカリカ見コミナリト云ニ由

一 徂来ノ墓石ハ伊豆ノ小松原ト云石ニテ蘭亭ノ  
見立ナル由

一 徂来ノ真蹟ノ政談ヲ文卿借得テ写シ之誠ニ感  
心スヘキモノ之是ハ立花玄立カ茶屋四郎次郎へ  
廿二兩ニテ世話セシヲ京都ニテ百兩ノ質ニ取ニト  
云シヲ四郎二郎ヤラヌト之四郎二郎カ清水ノ勘  
定奉行池田作左エ門借リ得タルヲ文卿借タリ  
瀧水嘗テ此昏ヲ見ラレタレ氏價貴ユへ買レサリ  
キトノ咄也

一 学則ノ内竹溪へ與へラル、書ハ實ハ藝州ノ房景  
山へ答書ナルヲ景山ヨリ是ハ入ラレ下サレマシキ  
ト頼ミニ付竹溪へ貴様ノ名ニシテ入ルベシトアリ  
イカサマニモト竹溪ノ名ニセラレタリ竹溪ハ理  
學ハセス人之

一 子新ハ學術ノ奇僻ナルノミナラス言行ト  
モニ詭激ナリシト子新ノモトへ度々行シ人ノ  
語リキ然氏是非トモ一家ノ言ヲ立ベキ<sup>志</sup>ニ  
テアリシ故甚精學ハ及カタキト云テ承リタ

リキ今ノ平安ノ学士ハ子新ノ奇僻ニ浮華ヲ  
配劑シタルト存スルニ蜷川文藏ナド以ノ外奇ヲ  
好ノル由承ハリタリモツトモ學術ハ又中々人ニス  
クレタリトハ存スル也

一 國策ハ人ニスミカタキ由ヲ云書ニ春臺ノ方ニ會  
アリシコレハ戰國游說ノ士イマワハリタルトナレハ  
トカク口上ニテ云テミタラニハスムトモアルベキトテ  
各本文ノ通りヲ今日ノ口上ニテ云テミタル由ヲレ  
ユヘスム所スマヌ所ハキトワカレタルト君脩カタレリ

一金華ハラドケタル人之何レモノ咄ニ呂布韋傳ノ  
嫪毐<sup>キウイ</sup>テハナイロウアイタト云争アリ金華側  
ヨリ己ハキウドクト覺タリト毒ノ字毒ノ字ニ  
似タル故ニ

一長松寺徂來ノ次嬪ノ墓ハ馬鬣封ノカタトゾ  
一春臺カ校セラレタル書ヲ閱セシニ片カナノ点一  
畫只ワツカニ誤リタルヲモコトトクスリケシモ  
トヨリ点ノアシキハノコラス改テ句豆正シクシ  
テ字義ノマキラハシキヲハ皆標注シ又注ナトノ義ノ

誤ヲ正シ評ヲモ標題ニシテ批點モアリ五色ノ  
スミニテ右ノ通ナルユヘ五色ニサイシキワケタル  
小紋ノ繪ヲミルニ似タリ誠ニ珍シキヲ古ヨリ  
如此精密ニ書ヲモタルヲハ類希ナリ又赤馬関石  
ノ研ニ五ツナラビタルヲ持テ五色ノ墨モ自制シテ  
用ラレシト享保十七壬子ノ歳ニ徠翁ノ遺文ヲ南  
郭校令ニテ一二卷ツ、分テ徠翁ノ門人ニ淨写ア  
リシトキ春臺峽中紀行ヲウケトリテ書レシ由  
一字一画ノ書キ損シナカリシトゾ

一南郭八十四ノトキ元禄丙子東都ニ至リ十七歳ノ  
トキ美濃守殿ニ仕ヘラレシトニ大東世語モ其比  
專ラ日本ノ書ヲ讀タルヲ書出シヲキタルヲ後  
ニ刑定ノ書ナラシメリキ日本ノ古北條氏ノ盛ナ  
リシ時ノ詞ツキ晋ノトキ門地ヲ貴ヒタルニ似タ  
リソレヲカキタルユヘ史漢ナトノ文字トハ立ハタ  
カイタルナリト語リキ老テ京都ニ遊ヒ歸テ後  
居間ノヲシ板ノ壁ノ中央ニ箕尾ノ瀧ヲ畫シ  
尤ノ方ニ薩々嶺ヨリ海ヲ眺ムノ景色ヲエカキ

四稿ニノスル七言古詩モカタワラニ層テアリ繪ハ  
全ク雪舟流ナリ常ニ語リテ日本ノ画ハ古法眼  
雪舟ヲ最上トスヘシ異國ヨリ來レルトテ人ノ賞  
スルハ種画譜ハ日本人ノ所謂町繪ニシテミルニ足  
ラス画論ハ津逮秘書中ニアルニテヲスベシト論  
セラレキ又神戸炭ノ別業ウキス屋敷ニテ庭  
ヲメクリテ数十年歌ヲヨマサルニフトヨミタリト  
テ語ラレシ「静ナル池ノコ、ロヲ水鳥ノウキスノ  
波ノタツトシモナシ



一 徠翁竹溪ニ語ラレシハ鈔録トハ號シタレ氏丹牛  
ガ兵ト云フアルヲ以テ冉矛ト題セントモ思ト云シ  
シ由瀉水ヨリキク

一 徠翁人ニ接スルニ士人ニ非レハ堅ク同間ヘハ入レザ  
リキ故ニ蘭亭ナゾモ屢出入シカト御ナヤノ子ナ  
レハ一間ツヘダテハ教授イタサレ見舞ナゾニ出シ  
寸ハ玄関ニテ逢テカヘサレシ後明ヲ失ノヨリハ  
士人同ヨウニアシラハレシト之昏芥中ヘイリシ  
モノハ社中ニテ竹溪東壁南郭ハカリシト

一 憲廟ハ御威勢アル御人ニテ威福ノアリシ  
御方ニ威福ノニハ人居所以執御下也ト但来云  
レシ物觀ナト登城ノ度々椽箱ニツ宛拜領物  
有シ由ナリ

一 憲廟ノ時柳沢侯ヘノ贈モノ多キ中ニ最華  
美ナルハ熊本候ニテイツモ第一番ニケリ或  
日大鯛ノ一分モ違ハヌラ五百枚進物トセラレシ  
由

一 德廟ノトキ酒匂川ノ水溢レケレハ川崎ノ田中

久吾今ノ兵庫  
カ祖父其時ハ勢ヲ得代官ノ御アシラヒニ  
テ大岡越前守殿ノカリニ此男右ノ水ヲ治メテ  
酒匂川ノ川上ニ島王ノ碑ヲ立ツ此碑文ヲ久吾  
書ヲ越前守へ出ス則上聞ニ達シ惣右エ門へ相  
談スベキ旨仰出サル越前守殿ヨリ但来へ奉  
昏来リ右ノ趣仰渡サレ中一日アリテ右ノ碑文  
大方書直スホドニシテ差上ラレタリ其寸溝水  
供ニテ越前守殿屋敷へ行レシト之其内伊勢判  
官為兼奉勅命治水立神島上廟於鴨川ト云

ナリ何ヨリ御出候ヤト南郭トワレケレハ前廉  
撫州志並河  
五著ノ中ニテ見タリトイワレキ此碑ヲ  
ハ竹溪書タリ久吾方ヨリ徠翁へ書テ頼ミ  
来ケレハ竹溪ヲ慰ナカラヤラレタリ  
一 德廟ノ時黒田豊前守殿ヲ以政事ノ儀認メ差  
出スベキ旨仰出サルニ付太平策ヲ書出シ上ラ  
レシガ加納遠江守有馬兵庫頭御側ニテ端キ、  
ノ由太平策モ兩人ノ手ヨリ出シ由  
一 度量考ヲ印行セラル、寸筭者へ授合タマル

へシト竹溪云ハレタレハ徠翁少々違アツテモ  
不<sup>レ</sup>苦ト云ハレタレモ無理ニス、メラレタルニヨリ  
中根元珪<sup>ハ</sup>頼レタリニケ所<sup>ハ</sup>遠タル由ニテ直サル其  
後竹溪へ元珪ノ咄シニ度量考ヨケレモ上総ニ  
又ケ様々々ノ筭者アリテ妙ト咄ノ寸竹溪夫  
レハ大方馬鹿ナルベシト云レシヨシ此語殊ノ外  
面白キトテ瀟水ノ咄ニキ

一 甲州宿ノ人徠翁 甲州道中イタサレシ寸書  
ヲモライタル由何トカ云ニ句ノ書ヲ持タリ此ワ

キ書ヲ瀟水ニ見セタルニ書ハ真蹟ナレモ印ト歎  
識ハ疑シキ由言レタリ熊耳ノ考へニハ落款ハ  
甲州道ニテ此ニ句ヲ得ラレタト云フナルベシ印  
ナクテハイカト有合ヲ押タラント父仲言キ  
一 徠翁平生書ヲ讀セラレシニ凡案ヲ用ザレシト  
之唯腹<sup>ハ</sup>イニナリテ書ヲ讀レシカ人ニ申サレシモ  
机案ヲ用レハ頗厭倦ヲ生スルモノナレハ用ヒヌカ  
ヨシト申サレタリ

一 平義質或時徳夫ニアイ徳夫云道ハ行レヌ世ノ

中ニナツタリト云シガ竹溪別レテ人ニ告テ春臺  
ハ大分コノセツハヒモジイノニ逢トミヘルト云テ笑  
レタリ

一 <sup>竹溪ハ</sup>徠翁ノ著述モノヲ多写セリ浪人ノ口筆耕料  
ヲトツテ各タリ葦園ニ今存セルニ辨学庸解  
鈴録論語徴十ト皆竹溪ノ書ニ詩文ハ大分竹  
溪ニ各セシコアリシト<sup>ナ</sup>リ鈴録ハ十五日ノ間ニ全部  
皆写ラハリシトニ徠翁常ニ申サルニハ竹溪公至  
テ頓筆ニテ騰写速ニソノ上脱落誤字等モ

セヌトテ多ク竹溪ニカセラレシガ鈴録ニ驚カ  
レシトシ

一 竹溪吉田候へ仕テ廣間ノ役ヲツトメラリシカ郎  
山侯ノ使者参リシ寸旧故ヲタシク語リシ上廣間  
ニテ大音声ニ申スニハソナラノ屋敷ハ馬鹿十屋ニ  
キジヤト思テ辞シタガコナノ屋敷モヤハリ馬鹿  
十屋シキジヤト申セシトカヤ

一 竹溪吉田候ニテ亞太夫ニナリタル寸春臺ニアイタ  
リ徳夫言シニハ足下コノコロ侯ニ用ヒラルト承リ

夕リ定メテ經濟ノ了簡モ出ベシ目出度由云レニ  
竹溪行過ナガラ大馬鹿モノ之只口ヲ齧フルマテ  
之何ソ經濟ナシドセントテ仕ヘニヤトテ大キニソシ  
ラレシ由

一竹溪ハ豪邁ノ人之青山辺ノ野ヘ友人トツレダチ  
行キシカ道ニテ乱暴モノニテアイカラ抜通ル  
人ニキヅヲツケタリ往来ノ者友人モ皆避ケタリ  
シカ竹溪一人ハナウ名ヲ歌ナガラ近ヨリ切ツクル刀  
ヲ扇一本ニテウケ流シ刀ヲ打ヲトシテ搏ヘタリト

瀟水ヨリキク

一南郭ノ詩ニ白鳳宮ト云ハ近江ノ白鳥 日本武尊  
白鳥ニ化シト云

明神ヲ祭ル社ノ下ニ

一南郭老年文字ヲヤメラレシ寸縁山ノ龍泉 蒼溟  
上人

現ノ銘好マレシニ左侯ハ倭文ヲ書タル下ナケハ  
和文ヲ進スヘキ由ニテ檜垣ノ瓦硯ノ文ヲ書レシ由  
此真蹟金知院ト龍泉トニ枚アリ藍川通益順  
雙鉤スト云此服子ノ手跡ハ順割カ方ニ所持ス  
一仲英ハシウタニ十人ノ鳥羽侯藩ニ青柳清大夫ト

云人アリ学文モ左道ナケレトモ詩ヲ好ミ又<sup>ス</sup>コシ作  
リ覚ヘテ詩會ヘモ出タルカ字ヲ付テモラヒ度由  
願タレハ子厚ト付ヨト云タリモト不学文柳々  
洲ナルヲ知ラテ居タルヲ同門ノ人柳子厚柳  
先生ナト云テナブリタリ後ニ外ニテ聞タレハ大キ  
ニコマリ字ヲカヘテ貫シトシ

一河保壽ハ物イマヒノ人之是モ仲英ニ目出度字ヲ  
ト乞タレハ詩經ノ桃之矢々ト云字ヲ以テ子矢ト  
トヨト云タルカ実不ニ讀ム心ナリ

一郡山侯ノ大夫ニ藪田五郎工門ト云人或時徠翁ト  
面談ノ時トカク炭部屋ト云シカタガ大シト云レ  
シ炭部屋ノシカタトハイカナルシカタト五郎工門  
尋ケレハ別ノ義ニモ侯ハ子ト一タイ人才ヲ用ルニハ  
上ニ目立候人バカリヲ用テハ役ニタヌモノシ  
レト同トニテ炭モヤハリ下スミニヨクシメリ候ノ  
有テモトカク上ガハノカハキスギタルノハカリ用申  
スモノナリソレユヘカクハ申シト云レシ由  
一本州ニ五十ヶ条ノ口傳十五ヶ條ノ秘事ト云フアリ

京都ニテハ銀一枚ツナラテハ口傳ヲユルサス其内ニ  
莫令四目之人視ト云フ有テ鍊丹法カナニカラ  
見セルナト云テアリ是ヲ松岡玄達ノ傳ニテハ懷孕  
ノ婦人ノフヲ四目ト云又何カシトカ云人ノ傳ニハ方  
相氏ハ逐鬼形ニテ葬礼ナトニモ先夕キスルナト云  
フアレハ見セヌト云フノ由徠翁キカレテ大笑ハレ  
右ヤウノフ何ノ拠モナキ猥説之四目トハ我身人ノ  
フ之鍊丹<sup>丹</sup>ノ法ヲ人ニ見セルナト云フノ由云レテ今ハ  
此説ニナリタル由石塚元犬ハナシキ

一南郭文集ノ内ニニヶ所轉倒アルヨシ瀧長愷ヨリ申  
越セシフアリキ

一答問書ノ向ヲカケシ人ハ酒井左右門尉殿大夫  
水野弥兵衛足田族ト云兩人之其俗各續ノ<sup>尚</sup>書書護  
園ニ存スト云フ聞リ

一護園ニアル説苑古本ノ外題ハ東壁ノ書ナル由

一遺契ハ大塩与右門カ本ヨリ校合シタリ其後備前  
ノ湯淺新兵衛點ヲ付タリ瀧水へ見セタレ氏氣ニ  
入ラスト之

由良暢蘭陵八田中太右工門子ニテ清太夫ノ猶子  
之入江幸八ハモト筑後侯ノ歩<sup>士</sup>任ノヨシ

一水足博泉ハ熊本ニテ父屏山蜜夫ニ殺サレシ博  
泉父ノ仇ヲ伐トテ熊本侯ヘ子ガヒク侯ヨリモユルサ  
レ仇ヲサガシ備前マデ出シカ道ニテ病氣ツキ狂  
氣シ備前ニテ病死夕リ此時廿三ニトリ

一松井助七字子潤ハ井伊彦根侯世臣ノ彦根ニテ  
徠學ヲ弘メシハ子潤武子忠此兩人ノ學才頗ル  
リシ人ニシカ彦根ニテ遠松源五郎ト云モノ同藩ニテ

屋敷モ隣ニシカ或時憤ル<sup>ト</sup>有シトミヘ源五郎ヲ  
召ニ遺シテ召寄セ坐定ルト奇ク子潤刀ヲ拔源  
五郎カ右ノ手ヲキリヲトス源五郎モサル者<sup>ニ</sup>左ノ  
手ニテ刀ヲ抜スカサ子潤ノ眉間ヘ切ツケタリソ  
ノ向ニ夏目外記ト云大夫アリ年十六コノ騷動ヲ  
聞ヨリ早速カケツケテ門ヲウタセテ近辺ヨリ来  
ル人ヲイレスシテ門ヲタノク者アレハ外記呼ハツテ  
云喧嘩ニテ候ホトニ外記是ニテ勝負ヲ見届候  
必ヲタチ入アルナト云テ人ヲ入レスニ置源五郎ヲ



リノ子ニワタシ子細ヲタシテ戻へ届ラ出サセシ  
ガソノサハキ少年ニハスグレシトナリシトテ彦根ニ  
ホマレアリシトシ此外記ハ学問ヨホド有ル人ニテ徠  
翁信コウイタセシ人之

一 池永道雲ノ子ハ宗右エ門ト云宗右エ門ハ黄金家  
ニテ芝口ニ丁目ノテレメンテイコト云薬ヲ賣大坂屋  
セ兵衛ノカブヲ買テ今アリ

一 長於詩書 孫夷孟子 一題辞 其長於云々ノ長ハ長ニトヨム  
ベシ其得手タル所ヲ云不得手ヲ短ト云ヘハソレヘ

對シテ長ニト讀ヘレ長スト上声ノヤウニヨムハ宜  
シカラズト瀟水ノ云レキ

一 物叔達カツテ奴隷ノ罪アルヲ逐レシニ甚憤リ  
テシカリテ逐出セシカハ方庵コレヲ聞テ徠翁  
ニ戒メラレシニハ逐へハ我臣ニ非ス何リコレヲ叱スル  
ニ及ハシヤ叱スルナラバ逐ヌガヨカルベシト云ハレシ  
由徠翁ノ吐ニトリ

一 徠來女舅備前新大郎少將殿ノ後宮仕ヘテ居  
ラレシガ後ニハ仕ラヤノテ娘 徠翁次嬪 方ニ寓居セラ

レシニ徠翁コレニ事フルト母ニ事フル如ク朝昼  
夕三度ツ、外間サヘアレハソノ居間マデ参ラレ  
キゲンラキカレシユヘ餘リ厚クトリアツカハレ  
コマラレタル位ノ由大寧ノ咄ニ

一 徠翁ノ祖母ハ北条氏政ノ侍大将平山参河守女  
之平生云ハレシニ六家ニ畜生ハカワヌガヨシモシカ  
ヲナラハ犬一足カフベシ又下部ヲ侍ニトリタテ  
使ヲナカレト云レシト徠翁吟サレシ由蘭亭咄ニト

一 肥後ノ学校ハ二ノ丸ノ中ニ建サセラレ玉山コレヲ司  
レリ玉山ハコトニ豪飲ニテ磊落ノ人ナレ正三年ノ喪  
ヲツトメタルナドハ人ノ及ヒガクキヲナリ

一 大和ヲ日本ト云シハ唐ノ則天ノ付ラレシ由文仲云  
一 室直清ハモト加賀ノ人ナルヲ白石ノ推轂ニテ縣官  
ヘ召出サレタリ

一 予嘗テ柳沢侯ニ存ナル徠親類書ト云モノヲ  
ミタリ左翁真蹟ニ可疑トコロモナキモノ也翁高  
祖父ニ参州荻生城主長亨二年彼城明渡属  
于北畠大納言郷房郷四位昇進仍打目トイヘリ

トアリ打目疑シケレハ何ト讀ムベキト社中ノ人尋  
ニニ打目ハ少目ノアママリナルヨシ

一 徠翁牛込ノ火事ノ寸人数六七人召連行カレシ  
アリ十人火消殊ノ外悦ヒ使者ニテ謝シケルト之  
指麾ニ目アリト見ヘタリ

一 安澹泊水戸公ノ命ヲ奉ノ列祖成績ヲ著ス其  
序守山侯ノ文之南郭カリテ作レリト云列祖成績ハ神祖代  
ノ実録ナリ文ハ叙事ヲ第一トスツレユヘ文 亘カラ  
ス間々ニ議論アリ此ニツイテ一ツノ佳話アリ本多

中務大輔殿執政タリシ寸水戸ノ邸ニイタリタマイ此  
書ヲ拜借アラシト有司ニタノマレケレ中々外  
ヘハ出スマシキ由預定ラレタルトナレハ決シテ此事  
ハ申出ストモナラズト申ス其翌日又本多候水戸  
ノ邸ニイタリ御タノミアレ氏取次ノ人モ曾ニトリア  
ハズ又其翌日至リ中山備前守殿ニ相見アリテ夕  
トヒ思召ニ忤フトモ此事達テ願ヒ奉ルトモヒシク  
イハレシニヨリ水戸公聞玉イ今執政ノ大臣日本ニ重  
キ人ナリ日々事多キ中ニ来リテ望ムト歎シガタ

シ只五日ノ間カスベキナリトテ御借有本多炭物  
ヨク書ク人ヲ十人エラミテ五日ノ間ニ写サセラレ  
タル由今ハ世ニモレテタマクニハ外ニモアリ千五百  
張モアリ

一無題ト云題ハ劉禹錫カ叙メタル之是ハ古意ノ  
コ・ロニ作ルベシト瀟水ナト云ハレシ唐詩選ニアル  
古意ハ女ノ男ノ遠游ヲ思コ・ロ又明人ノ無題ノ  
詩ハトカク男カ女ヲ思フヤウニ作テアル之其後仲  
山ノ云ニハ古意ハ古詩ノ意ト云コ・ロニテ古詩ト指

スハ十九首ノ一ニテ十九首ノ意ト云一ニ十九首モ皆  
女ヨリ男ヲ思フコ・ロ之南郭ノ説ト吐タリ然テ  
ハ田カノ女ヲ思意ニテハナキカ

一 学則ニ黄備ト書レシ黄ノ字瀟水ナトモトクト  
知レヌ由云レタルガ三才圖彙艸穀本艸ヲ引テ黄  
薇ト書タリ往古古備ノ中山ヨリワラヒラ出シタ  
リ黄ハ薇ノ本色ト云リ文仲カ詩ニ有ル由文卿  
ノ吐ト叔飛傳フ又和学者云ニハ古歌ニ真金  
フクキロノ中山トツケタレハ真金吹キトカケテ此

キハ黄ノ字ニテ黄備ト書タルベシ云タル由厄与ノ  
吐之

一 白石ハ生涯弟子ヲトラズ鳥山大久保伊豆守侯弟子タ

ラニテ頼レケレハ雀楼へ譲レタリ雀楼遺篇ハ

鳥山侯ノ世話ニテ印行セシ由序ハ清ノ鄭任鑰

室直清へト文仲吐之鄭任鑰ハ白石詩稿ノ序ヲ

各タル人ニ

一 白石サル豪富ノ町家へ行き寸主人云シニハ

今日ハヨキヲリニテ只今徂来モ参リモウスト

云シカハ白石早々帰ラレタリアトニテ徂来へ出會

シテハ中々ムツカシキユへ避タリト云レシ由文卿吐之

一 町家ニテ惜ベキモノハ市野屋三左春臺川人周易反正校合人井上

源藏源藏一乃屋作兵衛俗語ヲヨク解水滸傳へ假字ヲ付シ由瀟水へモ謁スノ三人ナルヨシ

瀟水吐之

一 芝ノ伊勢屋嘉右門ト云豪家ハ郡山侯ノ仕送ラセル

人ニ其弟ノ清左五門ハ倉前ノ米屋ニテ是モ豪家ニ

学文ス兄郡山侯ヨリ徠翁勉書并ニ墨跡ニ猗蘭

侯ノ跋アルヲ借用シテ清左五門へカシタルヲ春海見セ

タリト 憲廟實録モ三十卷トヤラ有ヲ借ヨセシ  
ト咄ナリキ

一 徂徠集四家島ノ初二冊ハ大久保四丁目ノ御家人  
洲中彦五郎書シ此男ハ学文ハナケレ氏手跡宜  
ニヨリ竹溪ナド世話イタサレシトシ

一 岡嶋援之ハ長崎ノ人ナルガ華言ヲヨクスルニヨリ其  
節ハ柳沢侯ニテ華言ハヤリ唐僧ナト應對多  
キユヘ保山殿抱ラレシ由徂翁華音ノ師ニ援之ハ  
長崎ニテハ放蕩ノ人ニ華人ノ海鼠ニ海參トテ尊

ムルヲ以テ交易セントテ金ヲトリ海參ヲハヤラス夫  
ヨリ江戸へ來タリ其後妻ヲ自分カ中人ヲシテ外  
へ嫁セシメタリ此援之カ子ノ由ニテ書生アリシヲ  
市橋伊豆守殿抱ラレタリ絶句解ノ證トヤラ云モノ  
ヲ書タルヲ瀟水ニ見セタルヲ此人ハ人ト為リ心得ス  
ト云レシガ言ニ不遠其後市橋ノ奥女中ト密通シ  
テ出奔シタリ此事熊耳甚ハ夕感セラレシヨシ  
一金華徂翁ヲ訪レシ寸適ソノ不在ニアウ一聯ヲト、  
ノテ去ル

聯 夙起鍊丹紫氣在干窓前  
暮歸炊玉青鳥下干簷下

金華一時ノ戯作ニト瀟水ノ咄ニ

一 徠翁外ヨリ書ラカリニ來レハ其俣カサレシ由若出  
シヤウ遅ケレハ殊ノ外怒ラレタリ我カ書ラ見タ  
キモ人ノ見タキモ同シト云レシ由

一 柳沢侯勢ノ盛ナル寸リノコロ名アル鎗術師來  
リ使者ノ間ニ居テ徠来ラ見取次ノ者ニタツ子  
シニハ只今肩ギヌニ丸ニ矢遠ラ付シ人此前ラ過リ

シガ何ト申人ゾト尋タリソレハ大方荻生物惣左門ナ  
ラント云ケル鎗術師云不思儀ハ人ノ先刻ヨリ二度  
ホト見受候ニ心ニスコシモスキノ無キ人之後ヨリセウ  
カツニハ打コマレヌ人ニト云シ由

一 板倉美仲ハ別ニ召出サレタル人ニ才出達ニ上聞  
數主計頭ヲ以テ御試御付ラレシカ美仲ヨリ韻  
字ノ内イツレノ字ニテモ五字ツ、御書出シ候ハ律  
ヲ作り御目ニカケベキ旨申レタリ主計頭學問  
ナキ人ニ何ノ字ノ差別ナク書出タルヲ直ニ律ニ

作り幾首モ作ラレシヲ入ニ  
上覽ニソレヨリ召出サ  
レタル由瀉水ヨリ聞

一竹溪終焉ノ時自分ノ艸稿ヲミナクシテ片紙隻  
字モノコサス焼ステタリソレユヘ著述ハ何モノコサヌト

一竹溪徠翁没後ヨリ忌日ニハ急度徠翁ノ神主  
ヘ謁シテ手製ノ果子ナトモツテ備ヘシ由瀉水ノ所ニ

一竹溪ハ活氣ノ人ニ徠翁ノ虫ボシノ寸イッモ竹溪手  
傳ユキタリ晒昏ノ時裸體テ昼寐ヲシテ庭サキ  
ニ居タリシガ徠翁竊ニミテ起サレテ申サルハ地

氣ヲ受テハ能アルマイト云声ニ驚テトビ起腹ノ晒  
昏ノ世話マテ又シタリナド、云シ由晒書ノ寸笈中  
ニ折節ナヒ書籍ノ名ガ蓋ニシルシテアルトテナヒ書  
籍ヲ記メヲクハ益ナキトトテケシテシマイシカ  
ハ徠翁是ヲ見テコレハ迷惑ナト折節他ヘ借メ  
ヲキシニ必ナヒノデハナイトテ笑レシト有トリ

一錦里ノ門人夕千才学勝レシ衆中集シ寸人々ノ  
志ヲ聞レシニ白石ト榊原玄甫ト兩人ス、ミ出日本  
有用ノ学問ヲ仕度リンスルト答シニ白石ハ古史通



藩翰譜讀史餘論東雅軍器考等皆日本有  
用ノ書ナリ神原ハ法律ノ學問骨折シニ紀州ハ  
法律ノハヤリシ國ユヘ紀州ニ召出サレシ由是ニツ  
キ有徳廟モ紀州ニテ法律ノ一具ニ御存知ア  
リハサレシ故江戸ニテ御即位ノ後モ御吟味有  
之徠翁物叔達モ專ラ法律家ノ言吟味コト由  
有徳廟三奉行ニ命シ懸断餘ヲ御エラハセア  
ソバサレ候由

一白石折タク柴ト云著述書二冊アリ是ハ後鳥羽

帝ノ御歌ニ「思ヒ出ル折タク柴ノタクケムリクセブモ  
ウレシワスレカタミニ」ト申御製衣ニテ名ツケラレシ由  
コレハ文廟へ申上ラレシ「ヲ」ヲ詳ニ出タル故外へカタ  
ク出サレ由

一徠翁一生一首ノ和歌トテ「ワカ門ノ五モト柳枝タ  
レテ長キ日アカヌ鶯ノナク」又其後ウケタマワリシ  
ニ少シク異同アリ「我ヤトノ五ツモト柳糸タレテ長  
ノ日飽ヌ鶯ソナク

一徠翁ノ方ニ人來リテ庫一ツニ盈書籍ヲウル者ノ

候購夕マヒナシヤト問價百六十金ナリト云徠翁  
予求ムベシトテ購ワレタリ家器武具ヲハノコシ  
大カタハタ、ミヲモアグルホトニメ金ノ不足ヲ拂  
物ニメ價ヲヤラレタリ其中ニ種々ノ書アリタル  
由詳ニ子廸ヨリキク子廸ハ物子ノ方ニ十七ハ  
比居タル由尤其賄レタルハ徠翁世九カ四十歳ノ  
由子廸物カタリニソレ故徠翁殊ニ書ニ富其中  
ニ李王カ集モアリテ古文辞ヲ脩スルヲソレヨリ  
ナリト聞タリ

一山田大助ハ十三ノ時無点モノナト讀タリトテ二百石  
下サレケルトシ

一徠翁ノ歌ニ「モロホシノ文ノカズクニシトクイツヲ我  
世ノスカタナラサル」アメニ問ニ便リヲカモ十孔子ノ  
道ヲタカ世ノ為ニ傳ヘヲキヌル

一隨筆記文筌蹄ハ見識未改ノ時ノ板ニ改リテ後  
学則答問書印行ス是皆徠翁存生ノ時ノ板ニ  
二辨論語徴ハ南郭春臺竹溪ホノ門人校正ス  
印行ス学庸解ヨリシテ子廸ノ校正ニ

一 五史ノ点ハ柳沢侯ノ臣志村三左門ト云シ人ト同ク  
点ヲ付ラレ書肆松會三四郎判ス三四郎ハ大ヤマシ  
ニテ廿一史ヲ印行セントセシヨシ保山侯ノ勢ナラ諸  
侯ヘモウレヤスカラント三四郎思立シシ五史ハ晋  
宋南齊北齊陳

一 前ニモ云テアル通り徠翁ニ辨徵学庸解ハ  
暗記ニテ各レシユヘ出处ヘツキ合セラレツト山  
井善六ニ頼マレケル春臺南郭ハイソガシ、金  
華ハケンオノヤウナル者ニ足下ナラテハタノム人ナ

シト云レシヨシ夫ヨリ右ノ書トモ写取り句讀ナ  
トセラレケル其内ニ歸省ニ紀州へ行シ是足時  
ヨリ腫物ニテ不快ニアリシカ程ナク在所ニテ  
物故シタリ但來ヨリ七日後レテ死セシニ依テ  
此方ニテ道具ナトウリテ金ニシテ在所ヘツカ  
ハセシトシ善六ハ根本ハ左門ト二人足利学校ニ  
居テ七經孟子考文ヲ編ミシ人ニテ精密ノ学ニ  
一 春臺嘗テ云ク今ニモ善六カ居タラハ余程六  
ケシキ学者ニ云レシ由

一 石臺孝經ハ唐ノ玄宗帝墨跡ニテ石本藏板  
護園ニアリ是ハ華本ヲ徠翁双鈎ニトリテ  
東野コレヲ彫シトカヤ一年河保壽瀟水ニ乞テ  
コレヲ得テ一ツハ保壽納メ一ツハ子迪ヘツカワス其  
後鳩谷字サントタル寸護園ヨリトリニキタリ  
瀟水大ニ困リシト子昌咄シキ  
一 書ヲ讀ミテ眼光紙ノ背ニ徹セサレハ快カラス  
ト徠翁云レシ由竹溪ノ物語ニテ瀟水聞レシ由  
一 南郭三十三番ノ觀音ヲ画セラレシニ没後遺物

トシテ縁山ノ仁海ヘ仲英ヨリ贈リタリ仁海没  
後ハラヒモノニ出タルラ青山百人町ノ著山ト云者  
買テ少林院ヘ納ノシトカヤ保壽咄之原本ハ  
宋画ノヨシ外ヨリ見セニ來タル内ニ写サレシ  
由余モ少林院ニテ六月廿一日詩會ノ筈見タリ  
一 南郭遺言ニテ墓碑銘并誌等ナシ因テ四編  
ノ末ニ水戸ノ樂山公子ノ文ニシテ仲英カ大概ヲ  
書ケリト瀟水ノ咄ナリキカ今ノ本ニハミヘス  
一 イサ葉ト云モハ草木ノ病ナルベシ夫ヲ好ム人

情ヲモヒヤルヘシ松十トハ本色ヲ失ヘリシ由南  
郭云レシ由

一 譯筌示蒙ハ分ケスニトヂテシカモ示蒙ノ方先  
ニアル由本手沢 訳筌ハ板刺ノ本同トシ其後殊ノ外  
増補アリ中ニハ省略モアリ示蒙モ其マノ由  
因テ板刺ノ本ハ宋見ノ寸ノ一モアリ

一 葬禮略ハモト徠翁唐紙ニズツト書テラカレシ  
ヲ瀟水ノ写シライテ題号モナケレハ葬禮略ト  
書置レシ其後南郭目錄ヲ書ル寸瀟水カク

ト申サレケレバアレハアノ通ニテ然ルベシト云シカ  
右ノ名トナリタル由

一 徠翁ハ南郭ノ云シハ世ノ中ヨ道コソ無ケレト云  
歌ハトウモ讀レヌ歌ニトテ賞美セラレシヨモ  
一 南郭公儀ノコヲ漢文ニテ書シカ此トニテ殊ノ外  
難儀アリシユヘ是ヨリ一向經濟ヲヤメラレ詩  
文バカリ專ラニセシク此記録末年焼捨ント云  
シヲ子寧ノ預リテ其後竊ニ跡ヲ書レシト穀  
山云キ

一 春臺カ徠翁書ヲ求ルゴトニ新シキ内ニ端書ヲ致サレシ由

一 徠外ヨリ来リシ書翰ノ返事ヲハ一ツニシテ一度ニカ、レシ由

一 徠翁送板倉美仲文ヲ美仲放蕩ノ寸瀟水預カラレ美仲放蕩ヤシテ美仲へ返サレタル其俣ウリ拂イシトカヤ其文卷物ニ成出タルヲ村田治兵衛求之鑑定ヲ瀟水へタノミ書テモラヒ付置シカ治兵衛モ放蕩ノセツ賣テ他人ノ手渡タル由

一 徠翁聯ニ 不朽者文万古常有仲尼不闕者心十歲豈無揚雄

一 絶句解大本并ニ古文矩ハ町匠間瀬宗ニ書スリ

一 東涯温厚ノ君子ニシ故講書ハ下午ニ豊宮崎ノ文庫ニテ書ヲ講セシ寸ハ数百人ノ聴衆アリ東涯声フルヒテ講セラレシニ却テ其謹慎ナルヲ人稱美シケルトナリ山田ニハ東涯ノ門人多アリケルト云傳又宅ニテ講書ノ寸ハ至テ小音ナルエヘ聞トリガタク堀川ノ向ニテ桶屋ノタカラカケル物音ニマキレテ別シテ聞エガリシトゾ

一 但來へ書肆ヨリ年玉ニ貝原ノ点例ヲ贈タリ一  
寸見ナガラツラく書込入セラレタリ瀟水文郷モ  
写シ置レタリ

一 春臺ノ會ニ好キ了簡ヲ云出シテモイヤトニ  
度ホト云ハルレハ能キ見識モ出サズシテ止ミタルニ  
松崎君修ハ秘藏ノ門人ユヘ會後ニ先ホド誰々  
カク云シハ面白キ由云ケル寸イツモ春臺ソウカト  
合点イタサレタリ人モトカク愛スル所ニ味サル  
モノト憤リテ子顯常ニ咄タリ

一 蘭亭ハ雄壯ノ形ニテ甚行儀正シク胡坐ナトセ  
シトハナキ人ナリ女房十人ハカリ持タリト増  
田知陳咄ニ

一 蘭亭ノ手跡ヲ津輕意參老所持ニ酔月ノ  
二字ニテ殊ニ見トナリ其後文郷ニハナセシニ文  
郷モ以前ニモライテ此酔月ノ字ヲ持タルガ蘭  
亭門人ノ医何ガシトカ云人ニ所望サレヤリタリ  
ト咄キ

一 唐詩典刑ハ唐後詩ノ凡例ニ書レタリ唐後詩

モトハ唐詩典刑ト云四家集ヲ漢後文ト云タル  
ヲ後ニ名ヲ改タリトシ

一南郭カ夏月ノ歌一雷ヤミノ梢涼シク端居シテ  
待出ル間モ夏ノ夜ノ月

一水戸ノ黄門公ノ園ヲ後樂園ト云范文公ノ語ヲ  
以テ付ラレシヲ受テヤ尾州公ノ支封高須侯  
ハ共樂園ト付ラレタリ大学侯ノ園ヲ台春園  
ト南郭付ラレタルヨシ

一徠翁ノ書ハ二年論語微学庸解ホニテ器量

ハ見へ过ルホトハ小枝假字<sup>カ</sup>モノ等板行瀉水  
カ世話ニスルハアマリ褒ヌ<sup>ト</sup>ト士寧ノ云シ由

一春臺何ヤラ封事ヲ上ラレタル<sup>ト</sup>アリテ穉明  
ト君脩カ相封ニシテ置タリト云ヲ惠明ニ聞タ  
レハ燒捨ニナリ今ハ有ラサルヨシ

一周易反正穉明命ヲ受テ出板セントセシカ貞  
正也ノ説ヲ用ラレタルユヘ貞ト云ハ尾生カ女ト約  
シテ溺死シタルト云ヤウナル馬鹿律儀ナル<sup>ト</sup>ニテ  
正也ノ説タシカナラサルユヘ其説ヲ書テ出サト



スル内釋明ト死タルユヘ今ニ出板ナシ其説カ有ト  
惠明云キ

一 中庸大学解ハ高安彦太郎世話ニテ野呂大  
藏ト云伊勢ノ延士ニテ江戸ニ在シニ書セタリ此  
板彦太郎藏板シテ賣出シタルヲ惠明持タリ  
瀟水考校本出テ後廢板サセラレタリ

一 室鳩巢加賀候ニ受廩シテ後白石ヲ同藩ヘス  
メケレト白石望ナキ由ニテユカス白石召出サレタ  
ル後此報ニ鳩巢ヲ推挙セラレテ同召出サレタリ

白石從五位下筑後守ニ叙爵イタサレシ寸

文廟御前ニテ御太刀拜領五位ノ將裝束モ下サ  
レタリ右御太刀拜領ハ萬石以下ニハ其例モナク  
破格ニテ下サレ候由其太刀誠ニ家ノ宝ナリトソ

一 徂来ノ文集ニ奥者帝之息壤也アマルツチト云リ

息壤ノ字其茂傳ニアレト地名之佩文韻府ナト

ニモ見ヘヌト文卿云シガ惠明カ時ニ歳暮ノ吟息

壤ノ字アリ奥ノ産ナレハ意ヲ知ヘシト問フニ前ニ  
付シ訓ノコトク答メリ

一 讀荀子讀韓非子讀呂氏十トノ各ハ宋学ノ猶除  
カサル以前ナレハヲカシテ説マ、アリ印行スルハ不  
宜ヲ何モ角モ信スル餘リ印行セラレシハ誤之ト  
士寧ハ常ニ子迪ノ一ヲ云レタリ

一 德廟律ノ一御スキユヘ明律ナドモ叔達ニ仰付ラ  
レ官制アリサレモ叔達ハアマリハツキトシテ学問  
ニテナケレハ但来ヘ律ノ一御尋アルニヨリ國字  
解モ出来タリ因テ叔達ハ外ノ事ヨリ律ノ一  
ハヨカリシ明律ヲ聞スルニハ約状ト云モノヲ取ラレ

ニ由其約状此ニ記ス

條約

一 律者人命所繫也君大夫有問當別文以對  
慎勿以意増減而阿其旨及恃其強記而  
輕忽之

一 律者異代異國之制也慎勿輒用之當世  
以壞成憲

一 律書文簡義深以難輒解故古有法家別  
為一家学慎勿妄傳之鹵莽学者貽害

不淺

右所不奉訓戒者有<sub>レ</sub>如白貝物觀

條約入置候人名

服南郭	藤東野	平義質	劉世篤
岡正敏	增勝淨	葛西正對	丹玄
松貞吉	藤容	落敬	崎巖
橘遂賢	室偉文	江機	山廣業
祝晴延	森公綏	田尚足	小田切尚綺
三谷達			

以上二十有一人

一松平能登守殿ハ春臺ノ門人ニテ詩文ナド出来シ人々

一筑波ハ徠翁へ謁見ナシ徠翁没後江戸へ出タリ

一筑波ハモト松平豊後守殿藩人之五油赤坂へ近キユへ放蕩メ亡命シタリ其後南郭へ謁タリ游優館ニテ宴ノ寸熊耳子寧ナトモ初テ近舟ニナリタリ春臺ハ家ヲ亡セシ人ニトテ寄付サリシトシ

一 高翼之ハ南郭ノ高第ノ門ニ士寧出ラルル前  
マテハ一人ナリキ士寧出ラレテ中惡シキユヘ會  
ニ出ス氣篇ヤカマシキ人ユヘ皆ソシリタルニ南  
郭云ハレシハマサカノ寸ニラレガ為ニ身ヲ捨ルモ  
ノハ翼之独ニト譽ラレタリ深切ナル人ノ由

一 京極公子ハ筑波ノ門人ニテ夫ヨリ南郭子  
寧ニ屬ス

一 仙田玄智ト云人本京師ノ生ナルカ甚器量ノ  
人物ニテ徠翁心易クイタサレ大玄堂ト号メ集

ニ文アリ町医ヨリ官医ニナラレ五百石領セシ金  
華ノ師ニ金華未タ玄仲ト云シ寸相門ト將基  
ヲ指タリシヲ玄智見ラレテ大ニ叱リ家業アル  
モノケ様ナル伎藝スベキトニアラスト盤ヲ真木  
割ニテ打出崩セシトニサスガノ金華モ一生恐レ  
シトシ

一 南郭ノ三稿ハ熊元朗熊元白庵ノ世話ニ一日元朗ノ宅  
ヘ校合ニ瀟水熊耳士寧仲英ナト行タリ其  
日ハ殊ノ外酒カ長シテ大杯ヲ求ル故螺盃ノ

九合五夕入ルヲ維公ノ宅ヨリ持來タリ大  
醉ノ上ユヘ誰モ飲者ナカリシニ瀟水ハカリ一  
盃飲テ熊耳半分士寧七分日程ノミタル皆  
酩酊ニテ倒タルヲ子廸ノ抱ヲ護セラレタルニ士  
寧ノ介抱ヲモ子廸セラレナガラ爾後酒ニ於テ  
ハ不佞ニ左祖セラルベシト云シニ士寧ノナルホト伏  
スヘシサリナガラ無念ナルヲカナト云レシ由士寧  
ノ語氣ノ由

一才子ノ免ヤ角口利テヤカマシキヲ野馬ノヤウニ

勝手シタイニ育チタルユヘ教ナケレハ上馬ニ成レ  
ヌト鶴公云レシ由文仲ヨリキク此鶴公ハモト長州  
ノ附庸吉川ノ藩人村尾權左エ門カ子ノ兄弟三人  
有テ鶴公ノ次ハ紀藩ノ奥ニテ涼月院ト云御年寄  
之真淵ノ門人ニテ古夙家ノ弟ハ清水公ノ村尾  
權之助ニテ能書之何レモ豪傑之村尾權左エ門ハ  
長州ヲ何カノワケニテ出軍学ヲ以テ松平和泉守  
殿ヨリ十五人扶持賞居タリ權之丞其跡之  
一南亩遍志ヲ初護園談餘ト云シユヘ周南談餘ヲ

南郭ノ為学初問ト題目シテ校合印行セラレシ由  
一筑波本郷ニ住セシ寸瀧水熊耳ナト問レタルニ今  
日ハ御目ニカ、ルマシキトテコトハリタリ兩人不審ニ  
思ハレシニ四五月立テ死タリ後ヨクク聞ケハ酒カ  
吞レヌトテ断リタルトソ

一圓機活法ハシカリナガラツカウモノナレハ調帝ト  
南郭付ラレタル由

一春臺ノ獨解老子アリシヲ未定ナリトテ稻樺明  
外へ出サ、リシヲ末期子頭へ譲リタル由文卿吐シ

一詩書古傳ハ子頭大塩与右エ門君則ナト校合ニ韓詩外

傳江戸摺ハ君修ノ校合ニ

一真淵カ士寧ニ初見セシ寸自分ノ著述ノ各ヲ  
譲ルベキモノナシ士寧ナラハ不殘譲ルヘキト云  
ニ由惠明云キ

一井上嘉膳カ會ニ瀧水熊耳文仲孟玉ナトマイリ  
シ寸熊耳ハ先へ辞メ歸リタリ如來取持ニ行タルニ  
殊ノ外瀧水熊耳ナドヲ慇懃ニアシライ熊耳  
ノ飯ル寸嘉膳送ラヌニ如來玄關へ送テ出テ後

瀧水ノ下ヲ熊耳ノ云ハルニハ酒イマタ不足ナルベ  
シ我ニ代リテ勸メラレヨト託セラレシ由述タレハ  
瀧水ノ云ソレハ足下ノ作りトナルベシ熊耳ノ語意  
ニアラスモシ熊耳ナラハモヤ子迪ハ酒ヲマセ  
マシキ由云ヘキヲ足下ノ作りト知レタリトイワレ  
シヲ文仲サスガハ瀧水ホトアル挨拶ニト語キ  
一如来ハモト慶子ノ弟ニテ男振ヨキ人ニシカモ殊  
ノ外世ニアル所アリテヲカシキト有人ナリ自  
分ニテ冬至會ノ寸瀧水文仲ナドモ行タル寸上下

ニテ次ニ八門人共上下ヲ着シ名札ヲ投<sup>投</sup>先生へ知ル  
人ニナル一体魏々タル庭ヲ鉄捧ヲ引テ鷲ノ者皮  
羽織ニテ通ルヲ人々不審シケレハ今日ノ火ノ用心  
ノ為ニ町人ヲ頼ミテ如此ナル由申セシ其後塾ヲ  
見セント云瀧水ナト歩行ノタメ行テ見ラレ熊ト  
誉テ叔々先生ノ盛ナルニハ不佞ホ及カタシケヤウ  
ノ下ヲ見テハ吾等ハ角カハヘルト戯ラレシ由惣テ  
京都ノ諸生トリアツカイノ如入塾ノ人ニハ断ヲ  
出サセ客ニテモ有レハ給仕ニツカヒ一医者出家等

ニハ茶ヲハコハセ外へ會ニ行ハ先生ノ交ヲ見ベシナ  
ト云テ若黨ニシテ連ルナト如此世智カシコキ  
生得ノ人ナル由文仲ノ咄ナリサレハ尾藩ニテ  
五百石賜リ布衣ニナリタリ今ハ殊ノ外富家  
ナル由

一 千葉茂左門カ會ノ寸如來京学セシ自賛ナト  
シテヨキ淫藥ヲ長崎ニテ傳授ヲ受タリト云  
タリ其時松窓関榮一郎云不佞日本ノ世説ヲカ、  
ント思立タルニ足下ヲハ德行篇へ入レント思ヒ

シカ今ノ一言ニテハ惑溺ニ入レズハナルマイト云タル  
ヨシ

一 大室澁井堀田左エ門侯ノ儒者ニ七十斗ノ時ニ君修  
カイフニハ人ハ世間テ惜ム内ニ死スルカヨシ先生

モ好時分ニトテ調戲シタリトソ

一 君修ノ親モ父子共ニ蘭亭門人ナルヨシ或時  
熊耳ノ蘭亭へ往レシ寸君修モ初テ知ル人ニナリ  
後ニ是ハ私親ニトテ引合サレシ後ニ熊耳ノ是ハ  
親ガ子ヲ引合スベキニアキコノ君修ハ俊拔ノ



人ニトテ気ニ入ラサリシ由

一人見弥右エ門云經濟録ハスクレテ出来タルモノニ  
編題ノ立方ハ何リ古人ノ目六ニヨラレツラン  
ト云シヲ瀟水ノ聞レテソレホトニ目錄ヲモ立  
ツルホトデナケレバ徠門ノ学者トハ云ハレスト云  
レキ

一尾上藩ノ中老津田應卿ト云ハ唐画スクレシ人  
ニテ南郭春臺ナトモ出會ハレ画ヲ褒メラレ  
タルヲ宇子迪聞居ラレタルヤ文卿ニタノミ人

見弥右エ門マテ画ノコヲタノミモライニヤリシ由

一兼山ハ瀟水ノ養子ニナリシカ熊本彦へ代講  
ニ行シ寸奥女中ニ女房約束セシ女アリテソノ  
コニ付細川彦ヨリモ出入ヲ止ラレシユへ瀟水  
怒リテ出セリソノ後護園門下ニテハ誰モツキ  
アハサリシ由南郭一人ヲビンナリトテヨセラレシガ  
人ノ肉ヲ食シタルト咄セシヨリコレモヨセラレズトシ  
一京都ノ石川平兵衛ト云儒者弁道鮮蔽ト云  
各ヲ著テ弁道ヲ排キタルヲ鳩谷持テ来リ

瀉水ニ見セタレハソレニ悉非ヲ打テ昏上ラレシ  
ヲ見タリキ

一日本へ漢土ヨリ通セシ古ハモト吳ノ方ヨリ通  
シ始メシニ吳ハアヤハナト云フモ織姫ノ吳ノ方ヨ  
リ来リシニ既ニ太伯ハ天照太神シヤト云説モ  
アルヨリ于越ハ吳越ニト云注モ荀子呂氏春秋  
ナトニモアルニ又諸越ト云ナレハモロコシト云訓ハ  
諸越ヨリ云フトニヘタリト縮垣長章物語  
ナリト惠明云キ

一鳴鳶道筑ハモト御城坊主ナリ後徠翁へ入門メ  
トリタテラレ奥儒者ニナリタリ

一文仲詩ノ出来ル度ニ菅長卿夫夫ナト、互ニ論  
ニ争タルヲ士寧聞レテ足下等ハ常ニ詩ノエ  
拙ヲ論メ徳ヲウルコト多シ此方へハタトヘヨクナ  
詩ニテモ夫ヲ云テクル、モノナシト云シ寸文仲ノ  
云タルハ近來ノ御作ハノビ又ヤウニト云タレハ子  
寧ノ云ハルハサレハリノコト若キ時分ハ裸テ  
堀池へ飛コム氣ナレハ詩モ何モクモルコトナシ年过

キテハ底力深イカ石ガ有フカト怪心ツヨケレハ  
飛込ム氣ニナリ兼ル所カ乃ノビ又所ニ詩モ同  
シトニテヤウイニ出来ヌユヘ調モノビカヌルヨシ士  
寧ノ云シト文仲ノ吐ク

一 禪軼四年 振ニ君修ニ逢タル寸迹作アリヤト  
問ニ禪軼遅吟ノ人ナレハ五絶ヲ一首見セラレ  
タリ一年三句ツ、按シタルヤト君修アサケシ由  
一 愿卿ハ賑美童之鳥石カ竜陽君ニテ旅行  
或ハ青楼ナトヘモツレ行タリ夫レヲ南郭ハ唯

カワユガルトノミ思ハレタレモトハ此訣ニテ夫ヨリ  
養生モ宜カラズトヤフリタルト見ヘタリト伯玄云キ  
一 牛込ノ傳久寺ト云寺ノ天門上人ト云カ品ヨ果ノ内  
ノ虚字ハカリヲ昏ヌキテ唐詩虚字ト云モノヲ  
作タリ春臺ナトモ称美セラレ服子序ヲ昏レタ  
リ夫ヲ関思恭カ持タリ思恭世話シタルヤウニ  
云タルユヘ春臺憤ラレシカ左ヤウノ訣ニテ印行セヌ  
ト見ヘタリ今関其寧ノ方ニ秘シタルヲ文卿カリテ  
大村侯ニ見セタレハ其方世話セヨトアルヨシ吐キ

一 惠明カ祖母トヤラハ春臺ノ娣ニ其覺ヘ万人ニ  
スクレタリ臺翁ト出合ノ寸年号月日何時ト互  
ニ昔物語セラレシ由惠明吐

一 君修カ士寧ニ逢度トテ文仲ヘ紹々ヲセヨト頼  
ム文仲ハ殊ノ外士寧ヲ信シタレハコトクシク承合  
タルニ君修云ハ士寧ニ何モ用ハナケレ氏酒カツヨキ  
トキ、タルユヘ逢テ見度ト云シヨシ

一 積翠園ノ徠翁ノ聯石刻ニ  
手揮五絃壁上名山欲響

目送孤鴈天外故人未過

此聯赤羽ニ有タルヲ子宥十大ヲシテ双鉤ニト  
ラセラレシカ南郭ノ聞レテ贈ルベシト云タルカ没  
後仲英ノ贈ニ由真蹟ハ雪斎カ藩ニ有トシ

一 聖道類聚ノ目錄子迪自筆之写

道中。礼。義物文極質經權徳。仁。孝友  
忠篤厚信恕惠周寛裕善良温実誠  
聖知聰明敏賢睿清廉耻公平節儉  
正直利貞恭敬遜讓不伐慎獨勇剛

強武毅果威命天帝鬼神祇

元亨利貞

聖道類聚引書目

易尚書 毛詩 春秋 左氏傳 公羊傳 穀梁傳

家語 孝經 論語 孟子 荀子 管子 晏子

春秋

表紙裏

交字信政 禮詩樂喪道利父母

智勇 改過 富忠 行志 直政 恭。士民德

敬名義 巧言事君 婦人心愛。名教明

孝悌 君子 小人 聖王 先生 仁 朋友 予一人

師諫

右之通有之九ヲ付タルハ出板コレアル分ノ印此方

ニテ付ラク

一 徠翁二十五歳ノ時南牕ニテ手親ヲ写ス処ノ

唐詩訓解二冊 鼻紙ノ麁末ナルニ写ス評語

皆徠翁之其序跋コ、ニ写ス

唐詩訓解一部二冊 徠來先生手自書者也

余嘗讀歎筌題上言曰在南牕時獨藏用

大學諺解一本以為窮僻之地之書如此乎  
又以為先生一時勸勉五蒙生之言也及六閱此  
書不覺敬起曰先生精力之所七用其卓越  
於千古誠不誣矣夫唐宋以後彫本肇起  
市人日傳萬紙書日益夥學者愈衰何也  
我東方書籍之盛八今時為最人好而且力  
則無九獲獲無不讀而我猶彼又何也蓋先  
生所謂在能思與不思哉又聞先生少而  
居田間山巖屋壁之蕪適獲之牧豎之輩

乃手抄目雙以當拱壁耳中間還東都每  
獲一奇書解衣縮食以易之高賈於是乎二  
酉之藏不啻也最後檢括諸故書少壯之  
所抄錄與蠹啮氣侵悉併焚之此書在焚  
之中香谷上人在傍請之先生曰持去矣  
此南牕之舊物後足見予之所以勤也上人  
傳之弟子梁公余與梁公善獨使予閱之素  
不得與先生同時而陪于下風也而少壯真  
面目猶見之當年者特梁公之賜也此可以

以概先生南牕時又知東飯之奮夫後之閱  
此書者知先生之不我欺也學之以以已哉  
明和丁亥秋九月 野本定物撰

### 唐詩訓解序

此者攀菴石公二氏之所殫思也評隲之詳  
最孳々猶時代之辨矣頃者乎寫正文一通  
加之評語稍附奇解蓋意初唐雅艷典麗  
氣象超邁盛則高華明亮格調深遠中  
則瀟洒清暢興趣悠婉晚則奇刺工緻詞

藻精切故戲劔李西宮錦琴之體題其後曰  
脩竹茅過雨涼帷垂紫几對秋光芙蓉出  
冰熒初日蘭菊着霜搖曉陽澗清猿伴明  
月映門紅葉帶斜陽西風惆悵古人遠一  
擲禿毫一斷腸

元祿庚午孟秋之日

荻徂徠書

唐詩訓解全部物茂卿手書明和五年

戊子春男道濟閱

物子既稱祿隱其居尚近市喧也遂移

牛門因值新正作此

藩中今日定何如蓬髮急梳驚歲除  
授先生闲户後柏浮弟子問奇餘唯  
歌白雪供高枕惜青春照曳裾自為  
王猷種竹牛門似是馬曹居

物茂卿

右八加川子慶人所藏十リ子慶云大梁没  
後此奇物ヲ挽貨余直一片ヲ贈テ取之卜云

北護園門下人名

藤忠統

姓藤原字大乾号倚蘭一号南山一号西臺  
一号郁文俗称本多伊豫守

丹治直道

号琴鶴俗称黑田豊前守

源頼寛

姓源字子孟俗称松平大学頭

越正珪

姓越智字君端号雲夢俗称曲直瀬養安  
院東都医官

菅正朝

後更弘嗣姓菅原字大佐号麟岐俗称  
山田大助幼聰敏年十三德廟以茂  
異召見特賜祿二百石二十四卒

島鳳卿

姓鳴嶋字歸德俗称道筑東都秘書監

板安世

字美仲号璜溪或号帆立俗稱板倉安世門  
姓源字文安号廣陵俗称武田長春院

武敬

東都醫官



木實聞

字公達号蘭皋俗稱木下字右衛門尾州公大夫

藤煥圖

字東壁号東野俗稱安藤仁右工門年二十没

服元喬

字子遷号南郭俗稱服部幸八後更小左工門

太宰純

字德夫号春臺又号紫芝園俗稱太宰弥右工門

平義質

字子排号竹溪俗稱三浦平太夫初仕柳沢候後致仕而去吉田候為正太夫以從遊徠公羽故自比李白客任城与孔巢父輩一居徂來山号竹溪云精明律

懸孝孺

字次公号周南俗稱山懸少助長州毛利侯文學

平玄仲

字子和号金華早孤及冠族人謀令字匡東都数年非其所志更為儒俗稱平野源右工門

石之清

字叔潭号大九又号默齋俗稱石川重次郎

根遜志

字伯修号武夷俗稱根本善右工門

岡孝先

字仲錫号嶺州俗稱岡井群太夫嶺岐侯文學

山鼎

字君彝号菟畚俗稱山井善六

鷹正長

字子方号爽鳩俗稱鷹見三郎兵衛田原侯大夫

佐久間義和

字子巖号洞岩仙臺侯世臣善画

吉有鄰

字臣哉号孤山俗稱吉田作兵衛森川生實候大夫善御家樣昏徠翁常每有和流書筆事令臣哉書之

藪弘篤

字震菴号以字行俗稱藪田久右工門熊本侯世臣

墨昭猷

字君微号滄浪俗稱墨江萬之丞熊

水足業元

号屍山俗稱平之進後改半助熊本

水足安方

字斯立号博泉屍山子俗稱平之允

源儀治

字京國号華岳俗稱九津見吉左工

宇鑿

字士朗

松崎堯臣

字子允筵山侯世臣

高野維馨

字子式号蘭亭号東里

三子雄

字仲英姓西村氏南郭義子

秋以正

字子師号淡園俗稱秋元喜内岡

宇惠

字子迪号瀟水俗稱宇佐美惠助雲

源義治

字京國号華岳參州筵谷侯世臣

晁文淵

字涵德号玄洲俗稱朝比名甚右工門

士伯曄

号藍州以母命字徠翁後有故為匠

田良暢

字子舒号蘭陵武州人

滕元啓

字維迪号南昌俗稱伊藤一藉

釋元皓

字大潮肥州松浦人

叙道費

字無隱号雜華室加賀人

叙原資

字萬菴号芙蓉東都品川住東禪寺

右四十一人記高弟大凡

園

北

